

福岡市NPO・ボランティア交流センター
2022年度 事業報告書

指定管理者：「あすみん」マネジメントグループ

2022 年度 事業報告書 目次

2022 年度の管理運営業務の実施方針	P1
2022 年度のふりかえり	P3
A. 管理部門の事業	P4
A1. 管理運営体制	P5
A2. 施設管理	P9
A3. 危機管理・安全対策	P13
A4. 個人情報・情報資産の保護	P14
A5. 労働環境	P15
A6. 人材育成	P16
A7. 窓口・サービス	P18
B. 情報部門の事業	P25
B1. メディアを活用した情報発信事業	P26
B2. 施設利用促進事業	P31
B3. 市民公益活動の情報発信	P35
C. 事業部門の事業	P40
C1. 市民公益活動に関する相談	P42
C2. 市民公益活動に関する研修及び講座の実施	P45
C3. 市民公益活動を推進する交流連携	P51
C4. 災害時のボランティア等への活動支援	P64
C5. NPO・ボランティア体験事業	P67
C6. ライフサイクルを通じた公益力の育成	P70
C7. 市民公益活動に関する調査及び研究	P76
C8. 自主事業	P78

2022 年度の管理運営業務の実施方針

2022 年度の管理運営業務は、年度当初の事業計画の中で設定した「1. 管理運営方針」と「2. コンセプト」に基づき、業務を「A：管理部門」「B：情報部門」「C：事業部門」の3部門に区分し実施しました。

1. 管理運営方針

福岡市 NPO・ボランティア交流センター（以下、「あすみん」）は、施設の管理はもちろん、利用者とのコミュニケーションから行政との調整まで幅広い業務が発生する複雑な現場です。私たちは、「あすみん」を管理運営するにあたり、その基盤となる3つの重点事項を設定し、企業と NPO の共同企業体であることを最大限に活かした管理体制を構築します。

また、「あすみん」マネジメントグループ（以下、当グループ）は、「あすみん」の管理運営にあたって、福岡市市民公益活動推進条例、福岡市 NPO・ボランティア交流センター条例、市民公益活動の推進に係る施策等を理解し、管理運営方針を設定します。

(1) 「あすみん」管理のプロフェッショナル集団の形成

「あすみん」は、市民活動に関わる多様なニーズが集まりますので、安定した運営には、多くのプロフェッショナルが必要となります。これまでも私たちは、施設管理のプロ、市民活動のプロ、組織運営のプロ、ボランティアコーディネーションのプロなど、「あすみん」に最適化されたスタッフを育成してきました。経験を重ねた職員を配置し、安定した運営を目指すとともに新しい職員にも引き続き育成を進め、ゆるぎない業務体制を提供します。

(2) 「現地」と「本部」がより一体となった管理体制のもと専門スキルと豊富な経験で「共働」を促進します。指定管理でよく起こる効率を求めた縦割りでの分業体制では、特殊な業務である「あすみん」での安定したサービスの提供は難しくなります。私たちは、現地と本部を結ぶ「本部運営会議」を最高決定機関と位置づけ、双方の立場で議論を交わせる場を定期的に作ることで、多様なニーズに応える施策へと生かします。また、本部との緊密な連携は、現地職員の働き方や職場環境にも良好な条件をもたらします。現地と本部がリアルタイムな情報共有をはかり、運営と経営の両側から「あすみん」の安定を構築します。

(3) 必要な時に外部との連携が可能な開かれた運営

「あすみん」では、市民活動に留まらない多様な市民ニーズが集まります。この市民ニーズに応えるためにも、専門的な視点はとても重要になります。私たちは相談事業のフレームの中で、外部専門家を積極的に取り入れ、そのニーズを解析し、サービスのブラッシュアップを図ります。

コンセプト

**Next action
with citizens**

多様化する市民活動のニーズを支援し、市民と共にこれからの公益を導く「あすみん」へ

指針1

指定管理者としての
プロフェッショナルリズム

指針2

参加しやすい
多様な活動の入り口

品質の高い公共サービスを創出、新しい市民活動が溢れる施設に

2. コンセプト

大きく様変わりしている市民活動に対応できる新たな「あすみん」のサービスの実現を目指し、「Next action with citizens（多様化する市民活動のニーズを支援し、市民と共にこれからの公益を導く「あすみん」へ）」というコンセプトを設定します。これは、変わりゆくニーズを的確に捉え、質の高い公共サービスを提供するため、その対象である市民とともに「あすみん」の再構築を図るものです。

そのために、私たちは、市民が安心して参加できる指定管理者としてのプロフェッショナリズムと参加しやすい多様な活動の入り口の2つの指針を運営の中心に据えることを提案します。私たちは、この2つの指針を効果的に組み合わせて品質の高い公共サービスを創り出し、変化の著しいこれからの時代に対応できる「あすみん」を市民のみならずと再構築し、「あすみん」を新しい市民活動が溢れる施設に育てていくことをお約束します。

(1) 指定管理者としてのプロフェッショナリズム

「公益の増進のための適正な運営が行えること」「公正な管理運営」「市民社会における必要な情報発信」「公益的活動を行う団体との共働」などのこれまでの実績で培った経験と品質を提供します。

(2) 参加しやすい多様な活動の入り口

社会のニーズを反映したサービスへのブラッシュアップをはじめとして、これまでの市民活動相談事業から一歩進んだ新しい対話の形の提供やこれまで私たちが開発してきた市民活動における基盤強化事業などの社会的なニーズに沿ったプログラムの発展などを、これまでの市民活動団体だけという対象から、個人や企業などの多様な対象へと拡げて提供します。

2022 年度のふりかえり

2022 年度は、5 か年のコンセプトとして掲げた「Next action with citizens（多様化する市民活動のニーズを支援し、市民と共にこれからの公益を導く「あすみん」へ）」の実装を目指し、従来の事業の強化や新規企画の立案をはかりました。年度の終盤では、新型コロナウイルスの感染拡大による影響も徐々に緩和され、施設利用やイベント開催などにも活気が戻りつつある状況でした。

管理部門では、コロナ禍での対策を継続し安心してご利用いただける施設環境を徹底しました。換気やドアノブの除菌、消毒用アルコールの設置などを徹底し、感染防止に努めました。3 月 13 日に発表された「新型コロナウイルス感染対策としてのマスク着用の見直し」に伴い、利用者の判断基準を尊重するよう利用ルールを変更しています。あすみんスタッフに関しては、各スタッフの意向を確認したうえで、マスク着用を継続した運営を行いました。施設の機能としては、以前より「繋がりにくい」「途切れる」といった苦情が多かった Fukuoka City Wifi を一新、レベルアップを図った「あすみん Wi-Fi」の運用を開始し、インターネット環境の改善ならびに利用者満足度の向上につながりました。利用者数は 36,358 名と昨年度に比べて約 1.6 倍の人数となりました（令和 3 年度の利用者数：21,770 名）。コロナ禍は依然として続き、市民活動自体は停滞していた一年でしたが、活動を再開する団体も多く、オンライン利用（年間 1,169 名）の促進なども含め、市民活動が徐々に活発化するにつれて利用者数も伸びてきました。また、スタッフの接遇の強化にも努め、結果として施設の快適性・スタッフの接遇についての満足度は 80%を越えました。

情報部門においても、コロナ禍での対応を継続し、対面での情報共有や交流が自粛される中、オンラインツールの活用や動画コンテンツの導入などに、昨年度にも増す活性化を進めました。従来から高いリーチ数を持っている SNS では、投稿頻度や内容の見直しを図り、投稿件数は昨年度よりも減少しながらも Facebook ページへのリーチ数は 101.3%アップし、質の高い情報を効果的に利用者に届けることができています。昨年度より開始した HTML メール（メールマガジン）においても開封率はほとんどが 25%以上と、多くの方に見られており、特に基盤強化講座やあすみんステージなどの開封率が高いことがわかるなど、情報を戦略的に届けるための基盤が整ってきています。また、講座や講演会のほとんどすべてをハイブリッド開催で行い、オンラインの参加の方が多い回もあるなど、自宅から気軽に講座に参加できるという利点が講座の参加者回復につながりました。

事業部門においても、コロナ禍における影響は顕著で、昨年度と同様にオンライン対応等を活用しながら実施方法を考える一年となりました。特にコロナ禍が収束するにつれ活発化な動きがあったのが相談対応です。事業運営のための資金調達や助成金確保に関する相談が増加しています。また、3 月には「あすみん相談月間」として相談キャンペーンを実施したことで、あすみんでできる相談内容や NPO に関する相談窓口があるということ、広く周知できました。今年度は申込者の約 4 割がオンライン対応を利用し、前年度よりオンラインでの相談が増えました。相談者の満足度は「とても満足」「満足」併せて 100%となっており、あすみん職員の対応も満足度の高いものとなっています。オンライン対応については、他の事業でも利用者への周知が進み、特に NPO 基盤強化講座においては、オンラインでの受講者が全体に占める割合が 77.9%になるなど、利用形態の変更が進む結果となっています。また、年に一度の大イベントと位置付ける「ボランティアフォーラム」は、20 周年を記念する意味合いも込め、あすみんの設立と同じ 10 月に開催。今年度は、コロナ以降の新しい市民活動の一步が生まれることに期待を込めた「Next action with citizens」をテーマに、2 日間のイベントを開催しました。「学生ボランティアミーティング」「あすみんステージ」などの交流連携事業も同日開催し、複合的なイベントとして構成しました。基調講演では、IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] から代表の川北秀人氏を迎え、「これまでから、これからを考える」と題してお話いただきました。福岡市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』は、福岡で市民活動に取り組んでこられた方々にお集まりいただき、この 20 年間の NPO 活動を振り返りました。

昨年度に続き、あらゆる面において、コロナ禍での対応に終始する一年となりましたが、新しく生まれ変わる状況下での施設運営について、多くのスキルやノウハウ・可能性を見出すことができました。

A：管理部門の事業

A1. 管理運営体制

- 1-1. 組織体制
- 1-2. 職員配置
- 1-3. 管理運営の向上
- 1-4. 自己評価体制

A2. 施設管理

- 2-1. 清掃業務
- 2-2. 保安警備業務
- 2-3. 施設・設備の保守、維持管理、修繕業務
- 2-4. 備品・什器の維持管理業務
- 2-5. 環境問題への配慮
- 2-6. 経費縮減対策

A3. 危機管理・安全対策

- 3-1. 危機管理に関する取り組み
- 3-2. 安全対策に関する取り組み

A4. 個人情報・情報資産の保護

- 4-1. 個人情報・情報資産保護への体制
- 4-2. 情報セキュリティの方策・漏洩時の対応

A5. 労働環境

- 5-1. ワークライフバランスの充実
- 5-2. 労働環境の促進

A6. 人材育成

- 6-1. 人財マネジメント
- 6-2. 職員の育成・スキルアップ

A7. 窓口・サービス

- 7-1. 市民公益活動促進のための施設の提供
- 7-2. サービスの質の確保・向上
- 7-3. 団体登録の更新
- 7-4. ユニバーサルデザインの推進
- 7-5. 施設機能の活用促進
- 7-6. カスタマーハラスメント対策

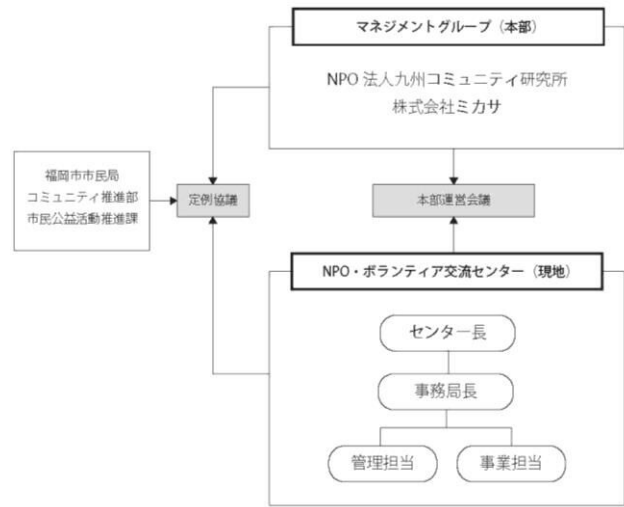
A	1-1	組織体制	1:管理運営体制
---	-----	------	----------

〈目的〉

事業方針に沿った適切な施設管理を行うため、安定した組織体制を構築する。

〈実施状況〉

- 業務を実施するための管理体制
 - ・統括責任者または副責任者を常時1名以上配置
- 責任者の配置
 - ・開館日数：346日
- 本部と現地との業務実施体制
 - ・「本部運営会議」の開催（月1回）
- 専門相談員のリスト化
 - ・専門的な相談にも的確に対応できる体制



■あすみん 組織体制図

〈成果〉

これまで築いてきた本部と現地の連携体制は維持しつつ、市役所との協議の場に本部担当者も関わる事で、安定した施設運営に取り組むことができました。特に、公益性が疑われた登録団体に関する対応では、市役所とのこまめな連絡を図り、統一した見解を持つことにより、余計な不信感を持たれない対応が出来ました。また、毎月実施している「本部運営会議」は、現場の課題を解消する場として機能し、本部の意向を取り込んだ施設運営につなげることが出来ました。

A	1-2	職員配置	1:管理運営体制
---	-----	------	----------

〈目的〉

施設の円滑な管理運営を行うため、適材適所の人員配置に努め、職員の安定雇用に努める。

〈実施状況〉

- 職員の配置
 - ・統括責任者・副責任者のほか、開館中2名以上の職員を配置
- 必要な人員の任用
 - ・8名（継続雇用）（令和5年3月末時点）
 - ・センター運営に精通する職員を継続的に雇用
- 勤務ローテーション
 - ・労働基準法などの関係法令を遵守

〈成果〉

これまで10年以上あすみんで勤めていた職員を事務局長に据えて、新たな管理運営体制でスタートしました。介護や結婚、出産などにより職員の入れ替わりもありましたが、運営マニュアル、研修プログラムを活用した職員研修で、大きなトラブルなく運営することができました。新しい職員が入ったことで、指導するスキルがあがり、人材育成の底上げへとつながりました。また、コロナ感染などにより人員が不足するときには、本部から公共施設運営の経験値の高い職員を配置し、突発的なトラブルにも適切に対応することができました。

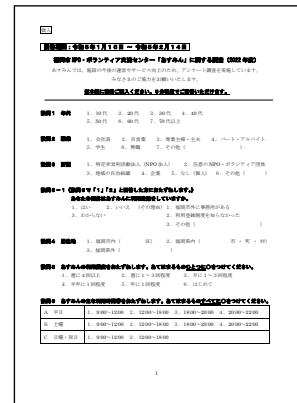
〈目的〉

施設利用者の意見や要望を収集・把握し、より利用しやすい施設の管理運営に反映させる。

〈実施状況〉

● 詳細

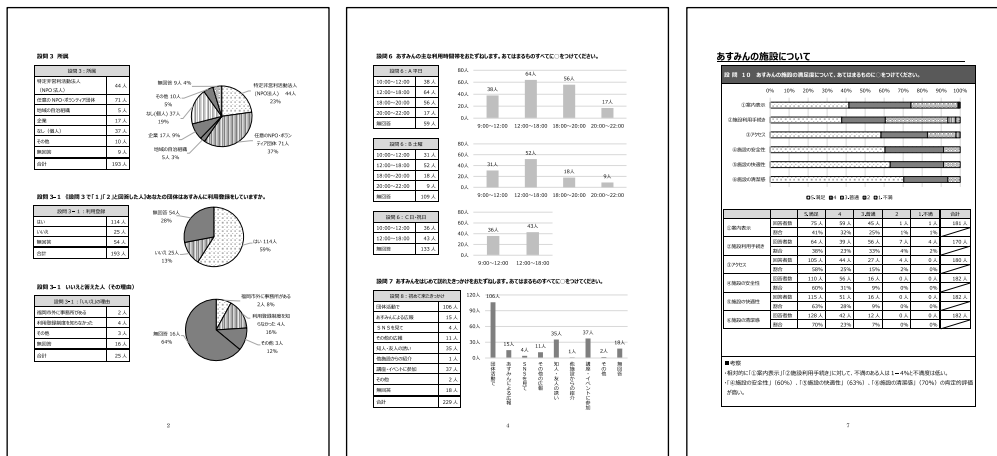
- ・ 実施期間：2023年1/15(日)～2/14(火)
- ・ 配布回収：窓口で配布・回収
- ・ 回答者数：371人
- ・ 設問項目
 - (1) あすみんの施設について
 - (2) あすみんの設備について
 - (3) あすみんのスタッフの接遇について
 - (4) あすみんが実施する各種事業について
 - (5) あすみんの情報提供について
- ・ アンケート調査結果（報告レポート）の作成（添付資料として別途提出）
- ・ あすみんの施設の満足度（「5：満足」「4：やや満足」を足した割合）
「アクセス」79%、「施設の安全性」86%、「施設の快適性」88%、「施設の清潔感」93%／肯定的評価が非常に高い
- ・ あすみん事業の満足度（「5：満足」「4：やや満足」を足した割合）
「設備の提供」83%「各種講座・イベント」73%／肯定的評価が非常に高い
- ・ あすみん情報ツールの満足度（「5：満足」「4：やや満足」を足した割合）
「SNS Facebook」60%「ホームページ」59%「あすみん情報誌」62%
「メールマガジン」64%／肯定的評価が高い
- ・ あすみんに対する総合的な満足度
「満足」「やや満足」の合計は245人（66%）という結果でした。



■利用者アンケート

〈成果〉

利用者アンケートでは、調査期間中のすべての利用者（任意、一人一回）に対してアンケートを実施することで、施設利用者のニーズや要望を知ることができました。全体的に肯定的な意見が多いのですが、改善点としては「手続きの簡素化」（当日利用の許可書の記入の簡素化、利用部屋の予約に手間がかかる、団体としての登録の簡素化）へのご意見が多くありました。また、ニーズとしては、印刷代行サービスや公益性の高いグッズの販売、受付やファシリテータのお手伝いサービスがあがっており、今後の事業運営のヒントを得ることができました。総合的な満足度は「満足」「やや満足」をあわせて66%でした。



■利用者アンケートの調査結果（報告レポート）の一部

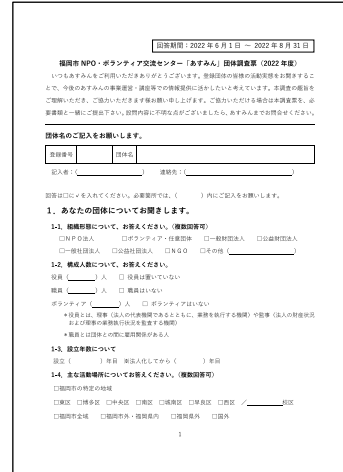
〈目的〉

今後の事業運営や登録団体の運営基盤の向上を目指すために、登録団体を対象に更新期間中に団体調査を実施する。

〈実施状況〉

● 詳細

- ・ 実施期間：6/1(水)～8/31(水)
- ・ 対象団体：あすみん登録団体（0001～0814）
- ※令和4年3月31日までに登録のある団体が対象
- ・ 配布回収：団体調査票を更新書類と同時に送付。
更新手続き時、窓口または郵送にて回収。
- ・ 回答団体数：273 団体（対象団体：448 団体、回収率 60.9%）
- ・ 設問項目（大項目 5、全 10 ページ）
 - (1) あなたの団体について
 - (2) 団体運営について
 - (3) 団体運営のスキルアップ、能力向上について
 - (4) あすみんの利用状況について
 - (5) 新型コロナウイルス感染症の団体活動への影響について
- ・ あすみん団体調査票結果（報告レポート）の作成
（添付資料として別途提出）



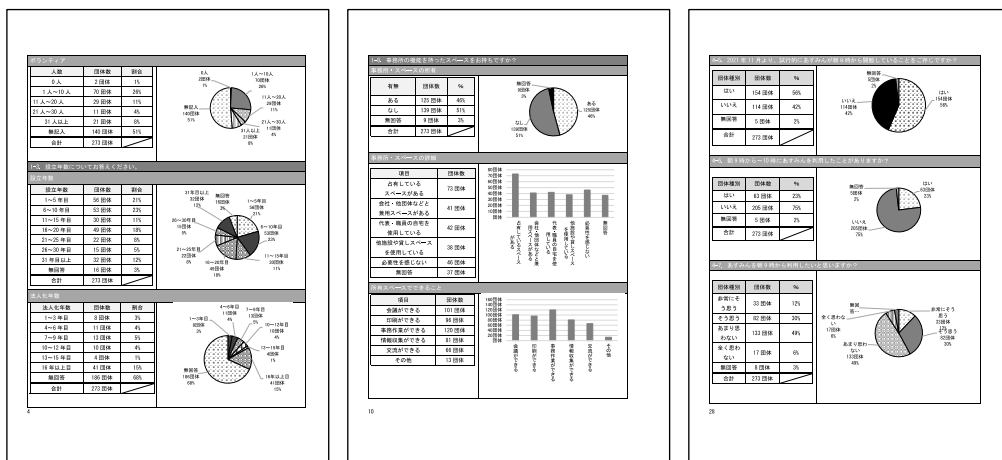
■ 団体調査票用紙

〈成果〉

「あすみに求める役割（複数回答）」では、「貸室（セミナールーム・会議室）の提供（221 団体）」 「スペース（ミーティングコーナー）の提供（197 団体）」 「機材（パソコン・印刷機）の提供（109 団体）」の順に3つのハードの提供が強く望まれています。

「団体運営のスキルアップ（複数回答）」では、「広報・情報発信（110 団体）」 「人材確保や育成（104 団体）」 「支援者の拡大（96 団体）」の順に課題として認識を持つ団体が多いことが挙げられます。あすみんが実施している「運営基盤強化講座」に上記の内容を反映させるとともに、運営に関する相談に対応できるネットワークづくりに注力することが効果的だと考えられます。

また、朝9時からの開館については、「利用したいと思う」割合は半数に満たないものの、母数としては115 件あり、一定のニーズがあることがわかりました。



■ 団体調査アンケートの調査結果（報告レポート）の一部

A	1-4	自己評価体制	1:管理運営体制
---	-----	--------	----------

〈目的〉

今後の管理運営や組織体制、市民公益活動に関する推進事業の向上を図ることを目的とし、学識経験者、NPO・ボランティア団体、企業などからゲストを選出し、あすみんのあり方について意見・評価をいただく「明日の市民の同窓会」をオープンミーティングのスタイルで開催する。

〈実施状況〉

●市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』

- ・実施日：10/2（日）11時～12時半
- ・参加者数：16名

スピーカー）あすみんセンター長 中村善輝
 IHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 川北秀人
 NPO 法人ママワーク研究所 田中彩
 ふくおか子ども食堂ネットワーク 雪田千春
 NPO 法人いるか 田口吾郎
 NPO 法人トゥマンハティふくおか 見栄睦子
 NGO 福岡ネットワーク 原田君子
 NPO 法人福岡被災地前進支援 吉田敦
 NPO 法人九州コミュニティ研究所 有馬梢



■ご意見をいただいたゲストの皆様

●指定管理者自己評価シート刷新に係るワークショップへの参加

今後の管理運営、市民公益活動に関する推進事業の内容や体制などの向上を目指すため、内部での目標（評価指標）を設定し、達成度を図ります。

〈成果〉

福岡市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』では、過去を振り返ることで、これからのあすみに求めらえることを考える機会になりました。
 社会貢献活動のためにあすみんの利用を希望する企業の利用登録について、あすみんでも導入を考えていますが、佐賀市民活動プラザの企業の利用の現状を知ること社会貢献活動の捉え方の幅が広がりました。また、有料で行っている事業の事例を紹介していただき、自立的な公共施設運営について考えることにつながりました。あすみんの利用者数の向上に対しての様々な可能性の検討に繋がりました。また、職員1人1人が日々の運営や事業の計画について意識するきっかけとなりました。
 指定管理者自己評価シートの刷新に係るワークショップでは、事業計画の項目と外部評価委員会の評価項目を照らし合わせることで、取り組みが評価につながっていない項目があることが分かりました。また、そのことを市民局とも共有ができたことで、今後の事業評価について見直す第一歩がスタートできました。

A	2-1	清掃業務	2:施設管理
---	-----	------	--------

〈目的〉

日常清掃及び定期清掃業務を行い、公共施設として快適な空間を保つ。

〈実施状況〉

施設の良好な衛生環境、美観の保持を心がけ、快適な空間を保つために仕様書に記されている業務を遂行しました。

●日常清掃業務（全開館日）

●定期清掃業務（年4回）

第1回：5/25（水）

第2回：8/24（水）

第3回：11/23（水）

第4回：2/22（水）

●定期清掃の効率化

- ・開館日と休館日の清掃業務を区分しました。特に休館日は日常できない箇所（ブラインド、窓、家電）に重点をおいて清掃しました。



■日常清掃の様子

〈成果〉

日常清掃では、昨年度に引き続き、曜日毎に重点的に行う清掃箇所を決め、効率的に清潔に保てるよう努めました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策も利用後や巡回時に換気・消毒作業を引き続き行い、衛生的な状態を保つ対応をしました。

A	2-2	保安警備業務	2:施設管理
---	-----	--------	--------

〈目的〉

利用者及び施設の財産の安全性を確保するために、施設・設備の保守や維持管理を適切に行い、施設内の秩序を維持し財産の保全を図る。

〈実施状況〉

●施設の巡回等による点検

- ・1日あたり、11時、15時、19時の3回実施

①破損箇所はないか／②利用者は適正な使用方法か

③不審物はないか／④不法行為者はいないか

⑤所管課又は警察等への報告はないか

●所管課・警察等への報告

- ・警察への通報：1回（5月）

点検項目	巡回		
	11:00	15:00	19:00
被損箇所はないか			
利用者は適正な使用方法か			
不審物はないか	印	印	印
不法行為者はいないか			
所管課又は警察等への報告はないか			
特記事項			

■チェック表の巡回項目

〈成果〉

職員が館内の巡回を1日3回行い、安心安全な施設の提供を維持しました。その他、利用者の申告によりエレベーター内で利用団体同志の口論によるトラブルが発生しました。被害者自身から警察へ通報されたとのことで、職員が状況の把握と、該当人物の気持ちの整理、あすみの本部にも共有しました。迅速かつ適切な対応により、大きなトラブルが発生することなく運営することができました。

A	2-3	施設・設備の保守、維持管理、修繕業務	2:施設管理
---	-----	--------------------	--------

〈目的〉

利用者が安全・快適に施設を利用できるように、施設・設備等の適切な維持管理を行う。

〈実施状況〉

- 施設設備の正常な機能を保持
 - ・点検、保守、不具合発生時の修繕、市への報告
 - ・館内壁面クロスの補修
- 拾得物の取り扱い
 - ・遺失物や拾得物の取り扱いには台帳を整備。今年度は10月～3月の月に1回中央警察署に届出。

〈成果〉

1日3回の巡回、開館・閉館作業時に施設内を点検し、不具合発見時は、所管課に報告をしました。また拾得物については、中央警察署に定期的に届出しました。

A	2-4	備品・什器の維持管理業務	2:施設管理
---	-----	--------------	--------

〈目的〉

備品・什器の点検、保守、修繕を行い、利用者が安全・快適に施設を利用できるようにする。

〈実施状況〉

- 管理運営用備品購入
 - ・事務所内シュレッダー、セミナールーム電波時計（壁掛け）・サーキュレーターの購入、大型液晶CO2測定器、マイク・スピーカーシステム、大判印刷やハレパネのカット用2m定規の、ベルトポールパーティション、NAS（ネットワークハードディスク）
- 管理運営用備品・什器の正常な機能を保持
 - ・掃除機のホースが破損したため修繕
 - ・会議室の椅子のパイプが破損、安全のため倉庫にて保管
 - ・「自動手指消毒器」の故障による撤去
 - ・BOSEスピーカー接続部不具合による修繕
- 附属備品のチェック（月1回）
 - ・休館日に作動確認と在庫確認
 - ・メーカーへの確認
- 附属備品の使用方法
 - ・利用方法を備品に書いて周知する（サーキュレーター）
 - ・貸出ルールの見直しの検討

〈成果〉

利用者が安全に施設を利用できるよう日常点検を確実に行いました。特に2016年から使用している備品（スピーカー・プロジェクター）を中心に不具合が多く発生したため、修繕対応のほか、クリーニングや主電源を切ったの応急処置、メーカーへの確認等を行い、正常な機能の維持に努めました。利用者への安全や安心を最優先に、早めの対応を心がけて快適に利用いただけるように努めました。

A	2-5 環境問題への配慮	2:施設管理
---	--------------	--------

〈目的〉

古紙分別方法の変更による経費削減に取り組むとともに、職員及び利用者に向けた省エネ意識の向上を図る。また、日頃より衛生環境保持に努め、ウイルス等の脅威に対応するため、衛生に関するさまざまな対策を講じる。

〈実施状況〉

- 省エネ診断
 - ・電気メーターの使用状況の確認（毎月末日）
- 紙類の省資源化
 - ・古紙リサイクル事業の活用
 - ・裏紙の再利用化
 - ・デジタルを使用した広報動画の館内放映によるペーパーレス化
- 衛生環境の保持
 - ・受付窓口、館内数カ所での消毒液設置を継続
 - ・団体への消毒スプレー・検温器の貸し出し
 - ・貸室利用後の部屋の換気、除菌
 - ・希釈した次亜塩素酸ナトリウムでのドアノブ等の除菌
 - ・巡回時に施設の換気、除菌
- 職員の健康管理
 - ・定期健康診断の実施（対象者全員が受診）
- 新型コロナウイルス感染症対策

2023年3月13日の「新型コロナウイルス感染対策としてのマスク着用の見直し」に伴い、利用者の判断基準を尊重し、館内でアナウンスをしました。あずみんスタッフは、各スタッフの意向を確認したうえで、マスク着用を継続して運営を行いました。



■消毒液の設置と使用の励行

〈成果〉

電気使用量はエアコンの温度調節、照明の点灯・消灯を意識して節減に努めました。未使用時の消灯、エアコンから切り替えてサーキュレーターによる館内換気を実施するなど、環境と健康面を配慮して無理のない範囲で取り組みました。館内でのクラスター発生を未然に防ぐこともでき、年間通してコロナに関する休館がありませんでした。

A	2-6 経費縮減対策	2:施設管理
---	------------	--------

〈目的〉

管理運営用の備品・什器の正常な機能を保持する。

電気の契約プランの見直しなど、電気料金の軽減につながる新電力の導入検討を提案する。

〈実施状況〉

●事務所複合機の印刷料金

- ・年間管理表の作成

●電気料金の軽減

- ・電気使用量一覧の作成
- ・西鉄ビルへの料金改定への確認対応
- ・照明の調整

時間帯・利用の無いエリアなど、利用に応じて照明の調整（一部消灯）



■職員に向けた照明の節電

〈成果〉

電気料の値上げや猛暑日の長期化などに伴い、エアコンや照明の利用を中心に節電対策を行いました。館内巡回時を中心に、利用のないエリアの確認を行い、使用されていない家電のコンセントを抜くなどの対応を行いました。事務所や休憩室など、利用者よりも職員から先行して意識付けと、無理のない範囲での実践を行いました。

A	3-1 危機管理に関する取り組み	3:危機管理・安全対策
---	------------------	-------------

〈目的〉

あすみに特化した「危機管理・安全対策マニュアル」に基づき、施設で起こりうる様々な危機に迅速・的確な対応を行う。

〈実施状況〉

●危機管理・安全対策マニュアルの運用

- ・防火・防災訓練時に職員がフロー図の確認を行い、火災等の発生を想定した訓練を実施

●「イベント開催時のチェックリスト」のアップ

(福岡県による新型コロナウイルス感染症にかかる催物の開催制限等の方針に基づき)

●天神 CLASS 消防訓練 (年 2 回)

【第 1 回】

- ・実施日：8/24(水)：参加者：12 名

【第 2 回】

- ・実施日：3/13(月)：参加者：1 名



■消防訓練の様子

〈成果〉

天神 CLASS 消防訓練では、平常時からテナント間の交流が図れていることもあり、隊長の指示に従い、各テナントが避難の声掛け、経路の確保など、円滑に役割を果たし訓練を行うことができました。ビル内の日ごろ通らないエリア・スペースの確認や実践に近い消火活動などを行い、よりシミュレーションを明確に行うことができ、平常時からの備えるための準備として学びになりました。

A	3-2 安全対策に関する取り組み	3:危機管理・安全対策
---	------------------	-------------

〈目的〉

日常的な犯罪の防止や危険箇所の早期発見に努め、ビル管理会社、テナントと連携を図る。また、犯罪、事故、火災の発生を未然に防ぎ、利用者の安全を確保する。防災事故処置訓練、誘導灯・懐中電灯の整備点検等を行い、利用者の安全確保を徹底する。

〈実施状況〉

●消防用設備等自主点検 (年 2 回)

- ・実施日：9/30(金)

点検実施者：楠生、二宮

- ・実施日：3/14(火)

点検実施者：二宮、梅谷

消防用設備等について、自主点検チェック表を用いた確認を実施し、不具合や異常等の発見はありませんでした。

●AED 講習

- ・実施日：9/28(水)

- ・参加者：職員 12 名

- ・講師：福岡市消防局防災センター



■自主点検の様子

〈成果〉

AED 講習については、コロナ禍では座学と映像を中心に行ってきましたが、今回は通常時と同様に体験キッドを使用して、より実践に近い形で学ぶとともに、いざという時のイメージも想定することができました。

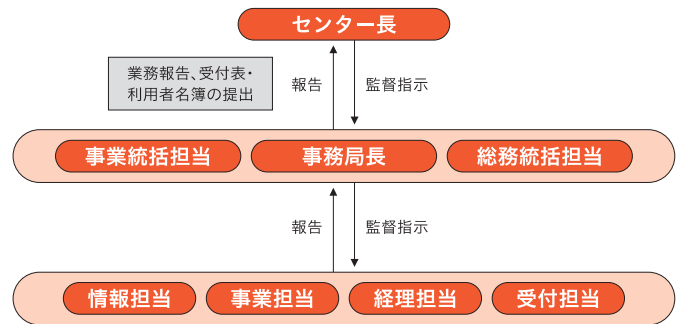
A	4-1	個人情報・情報資産保護への体制	4:個人情報・情報資産の保護
---	-----	-----------------	----------------

〈目的〉

「個人情報管理規程（個人情報コンプライアンス・プログラム）」を運用し、個人情報や情報資産に対して、適正な管理と保護を徹底する。

〈実施状況〉

- ・「個人情報管理規程（個人情報コンプライアンス・プログラム）」を運用
- ・利用者から収集した個人情報の漏洩や紛失に対する防止策の実施
- ・個人情報保護研修の実施：年1回（7月）



■個人情報保護の管理体系図

〈成果〉

個人情報を取り扱う業務の中で気をつけるべきところについて研修で共有し、人為的なミスから発生する個人情報の漏洩に関する対策を徹底しました。収集する個人情報をできるだけ減らし、アナログ・デジタル両方の保管のルールについても見直しを行ったことで、個人情報に関係したトラブルの発生を抑えました。

A	4-2	情報セキュリティの方策・漏洩時の対応	4:個人情報・情報資産の保護
---	-----	--------------------	----------------

〈目的〉

利用者に関する保有個人情報や機密情報の重要性を認識し、個人情報や情報資産に関して、適正な管理と保護を行うために、マニュアルの読み合わせや現状の見直しを行う。

〈実施状況〉

●概要

- ・情報セキュリティ研修の実施：業務中に取り扱う「情報」の種類と適切な取り扱い方、起こりうる可能性のある情報セキュリティ上の注意点について研修を行い、再確認しました。
- ・事務室内の個人情報、情報資産の保管と取り扱いのルールの見直し：事務室内の個人情報、情報資産に関するメモや書類の保管と取扱いのルールについて、適宜見直しを行いました。
- ・機密情報の管理の徹底：経理や人事のファイル、WEB サイトや SNS、サーバへの管理者パスワードなどの機密情報の管理を徹底し、外部への流出を未然に防止しました。
- ・セキュリティ HUB の設置とメールサーバセキュリティのアップグレード：物理的なセキュリティ HUB を設置し、不正な端末からのネットワークへの接続や、危険なサイトへの接続を防止しました。また、メールサーバのセキュリティの設定を高くし、ウイルスメールや迷惑メールの受信数を大幅に減らしました。
- ・ウイルスチェック：職員用 PC、利用者用 PC に内蔵されているウイルスチェックを週に 1 回実施しました。

〈成果〉

業務の中で取り扱う個人情報・情報資産の管理と取扱いのルールの見直しを適宜行い、新たに出た課題に対しても予防策を講じました。また、研修を通して職員全体の情報セキュリティに対する意識を高め、人為的ミスの発生確率を低減することに努めました。

A	5-1	ワークライフバランスの充実	5:労働環境
---	-----	---------------	--------

〈目的〉

職員個々とコミュニケーションを図りながら、各々のライフスタイルに配慮したワークライフバランスの充実を図ることによって、「職員がイキイキと働ける環境づくり」を目指す。

〈実施状況〉

- 担当事業・公休の希望日を事前に把握・共有する
数ヶ月先のスケジュール（シフト・事業カレンダー）を用意して全職員に共有し、事業の計画を円滑に進め、プライベートの時間の確保ができるようバランスを調整しながらシフトを作成しました。
- 新型コロナウイルス対策ワクチン実施によるシフトの設定
接種後の副反応を想定した余裕のあるスケジュールを事前に予定し、職員が共有、対応できる環境をつくることで、通知が届いた後に速やかに接種することができました。
- 個人面談、1on1 の実施（不定期）
事業の進捗や働き方の不安などについて責任者（センター長、事務局長）と職員が直接、話すことができる個人面談の場を設けました。また、悩みがある職員には、個別に相談対応を行いました。
- 本部との直接コミュニケーションの実施
休館日の研修や職員会議に本部職員が参加し、本部と現場の声を共有しながら、考え方の差異や疑問・不安の解消を図りました。
- あすみん SNS を活用した情報発信の実施（Facebook）
SNS の記事作成に関して、職員が日頃から興味や関心を持っていること、趣味や個性に沿ったコンテンツを担当しやりがいを持って仕事に取り組める環境づくりを図りました。

〈成果〉

職員の誰もがなんでも気軽に話しやすい雰囲気づくりに努め、定期的なコミュニケーション機会を創出することによって、事前に職員の状況を把握することができました。それぞれの個人的な事情により職員が離職することもありましたが、適切な準備と対応をすることで最小限の負担に抑えることができました。

A	5-2	労働環境の促進	5:労働環境
---	-----	---------	--------

〈目的〉

職員に多くのスキルや知識を要求する職場であることを踏まえ、成長をサポートする適切な方策の提供をすすめる。いかなる状況の変化にも柔軟に対応できるような想定・準備を図り、より良い労働環境の創出を目指す。

〈実施状況〉

- 職員間の新型コロナウイルス感染予防対策
 - ・ 職員同士が間隔を空けての業務
 - ・ 緊急時に備えたりモート勤務体制の構築
 - ・ ワクチン接種の実施（全職員）
- SNS を用いた職員間連絡
 - ・ 事故による遅刻など、急を要する連絡事項にも臨機応変に対応できるように、職員間でいつでも情報交換ができる SNS を設置しました。

〈成果〉

コロナ禍での対応措置が繰り返される中、試行錯誤しながらシフトや労働環境を調整し、職員が安心して業務が遂行できるように努めました。コロナへの感染対策など、職場環境が大きく変化するなか、職員からのアイデアを活かしながらより良い職場環境の構築に努めました。再び朝 10 時開館へと移行するため、新シフトによる対応へと切り替えるなど、変動する勤務体制に円滑に対応することができました。

A	6-1	人財マネジメント	6:人材育成
---	-----	----------	--------

〈目的〉

職員それぞれの特長を生かし施設運営に反映させることを目的とする。マネジメントグループ本部と現地責任者が就労状況や育成について協議し、最適な人材の配置や担当などのマネジメントを行う。

〈実施状況〉

●人財マネジメント会議の実施

- ・年12回実施（コロナウイルス感染症対策の為オンラインでも開催）

●本部と現場職員のコミュニケーション

- ・新年度式、新年式、休館日会議、ほか



■一年の抱負を語る新年式

〈成果〉

マネジメントグループで毎月開催している人財マネジメント会議に参加し、公共施設の管理運営に従事する職員としての在り方を明確にし、その指針に基づいた現場職員の評価・指導を行いました。

休館日の全現場職員が参加する会議には、本部職員も同席し、職員個々の現状（スキルの習熟度、心理状態など）の把握に努めました。

それぞれの職員が安心して職務の遂行にあたることができるように努めたことで、コロナ罹患者が出て交代勤務が必要になった時でもお互いにバックアップし合い、安定した運営ができました。

A	6-2	職員の育成・スキルアップ	6:人材育成
---	-----	--------------	--------

〈目的〉

利用者の立場を理解し、業務にあたることのできる人材の育成を目的とする。施設の円滑な運営と健全な管理を遂行するため、すべての職員を対象に定期的な研修を行う。定期的な研修や資格取得の奨励などを通して、職員それぞれの確実なスキルアップに努める。

〈実施状況〉

●一般研修の実施

実施日	職員研修項目	講師	受講者数
4月27日	オンライン講座設営研修	内部講師	11人
4月27日	ボランティア講座	内部講師	11人
5月25日	ファンリテーション研修	特定非営利活動法人日本ファンリテーション協会	11人
7月27日	人権研修	内部講師	13人
8月24日	DX研修	総務企画局DX戦略部DX戦略課	12人
9月28日	AED研修	福岡市消防局防災センター	12人
10月26日	接遇研修	日本航空福岡空港支店	10人
11月23日	機材研修	内部講師	12人
11月22日	働き方改革研修	特定社会保険労士	1人
12月28日	SDGs研修	福岡市総務企画局企画調整部	13人
12月28日	ユニバーサル都市研修	福岡市総務企画局企画調整部	13人
12月3日	ユマニチュード講座	ふくふくプラザ	1人
1月25日	相談研修	内部講師	12人
1月17日	甲種防火管理者講習	福岡市防災センター	1人
1月18日	甲種防火管理者講習	福岡市防災センター	1人
2月1日	カスタマーハラスメント対策セミナー	福岡商工会議所	1人
2月8日	令和4年度指定管理者人権研修	人権啓発センター人権啓発推進指導員	1人
2月9日	組織のつくり方研修	福岡商工会議所	1人
2月14日	甲種防火管理者講習	福岡市防災センター	1人
2月15日	甲種防火管理者講習	福岡市防災センター	1人
2月18日	ファンリテーション基礎講座	特定非営利活動法人日本ファンリテーション協会	2人

〈成果〉

コロナ禍での対応に追われ、なかなか通常通りの研修や講座の受講が困難な状況でしたが、それぞれの状況に合わせて工夫しながら実施しました。ユニバーサル都市研修では、他施設の職員と一緒にグループワーク形式でユニバーサルデザインを考えることで、利用者の目線に立った新たな気づきがあり、施設の使いやすさの向上に活かすことができました。「甲種防火管理者講習」では、新たに責任者に加わった職員（2名）が受講し、安全なセンター運営のために火災や地震時など緊急時における対応方法を学びました。



■接遇研修



■AED研修



■機材研修

A	7-1	市民公益活動促進のための施設の提供	7:窓口・サービス
---	-----	-------------------	-----------

〈目的〉

市民公益活動の担い手の増加を図るため、施設を利用する団体の登録を勧め活動の場を提供する。

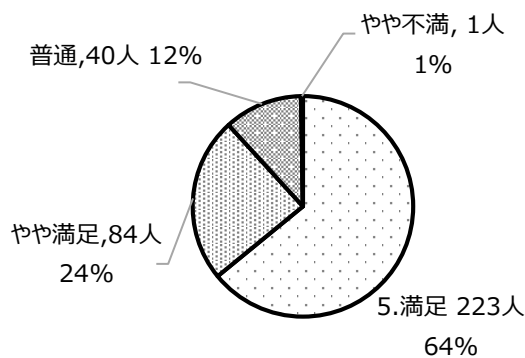
〈実施状況〉

●利用者数 36,358名

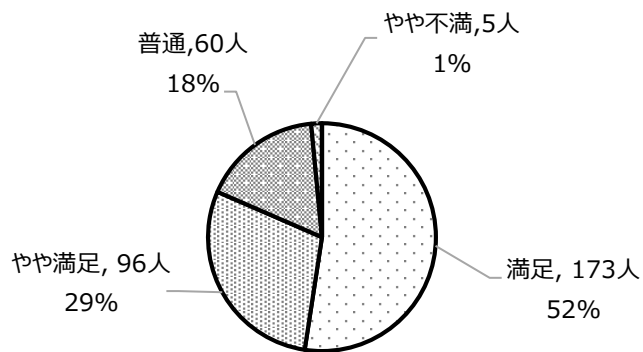
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022年	2,839	2,808	2,950	3,294	3,278	2,689	3,700	3,136	2,537	2,642	2,956	3,529	36,358

●登録団体数

- ・新規：68団体
- ・抹消：73団体（累計：団体448団体）
- ・未更新



■利用者アンケートの“施設の快適性”の満足度



■利用者アンケートの“スタッフの言葉づかい”の満足度

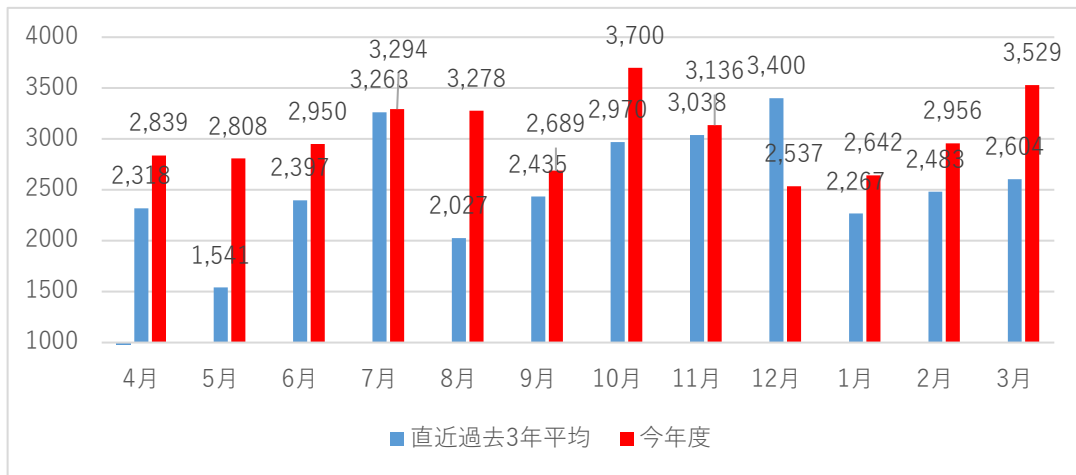
〈成果〉

今年度は利用者数が36,358名となり、昨年度に比べて約1.6倍の人数となりました（令和3年度の利用者数：21,770名）。昨年度はコロナ禍ということもあり市民活動が停滞していた年でしたが、今年度からは活動を再開する団体も多く、市民活動が徐々に活発化するにつれて利用者数も伸びてきました。また昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大予防に努めながら窓口での各種受付業務や、交流スペースの提供、ワーキングコーナー等の備品の提供などを行いました。またスタッフの接遇の強化にも努め、結果として施設の快適性・スタッフの接遇についての満足度は80%を越えました。

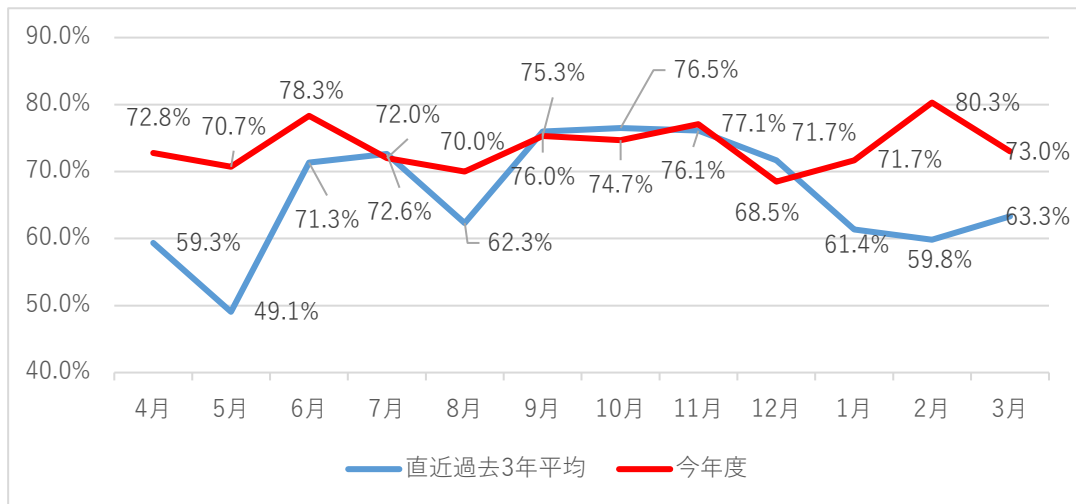
〈利用者数、稼働率の過去5年間の実績〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	29	30	29	30	30	28	30	29	27	27	27	(30)	346
令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数実績	2,839	2,808	2,950	3,294	3,278	2,689	3,700	3,136	2,537	2,642	2,956	3,529	36,358
稼働率実績	72.8%	70.7%	78.3%	72.0%	70.0%	75.3%	74.7%	77.1%	68.5%	71.7%	80.3%	73.0%	73.7%
2021年度利用者数実績	2,723	414	568	2,853	367	0	2,400	3,242	2,355	1,752	1,483	3,613	21,770
2021年度稼働率実績	67.0%	45.5%	72.1%	75.2%	51.1%	(68.3%)	74.1%	74.6%	68.1%	59.2%	54.9%	69.4%	68.3%
2020年度利用者数実績	126	263	1,800	2,289	2,029	2,324	2,795	2,631	3,225	1,251	1,319	2,295	22,347
2020年度稼働率実績	30.5%	20.9%	56.6%	61.6%	58.6%	72.6%	78.4%	78.7%	75.9%	47.6%	50.6%	70.0%	58.5%
2019年度利用者数実績	4,104	3,946	4,823	4,646	3,686	4,980	3,716	3,241	4,620	3,799	4,648	1,905	48,114
2019年度稼働率実績	80.5%	80.8%	85.3%	81.1%	77.3%	87.1%	77.0%	75.0%	71.1%	77.3%	74.0%	50.5%	76.4%
2018年度利用者数実績	3,768	4,049	4,388	4,200	4,194	4,455	5,334	4,447	3,416	4,000	4,475	4,095	50,821
2018年度稼働率実績	81.4%	81.6%	85.5%	78.8%	80.5%	84.0%	80.5%	82.0%	70.7%	77.9%	81.9%	82.1%	80.6%

〈利用者数推移〉



〈稼働率推移〉



A	7-2	サービスの質の確保・向上	7:窓口・サービス
---	-----	--------------	-----------

〈目的〉

ホスピタリティあふれる「スマイルプラス 1」の接客を行い、利用者のニーズをつかむことで、ニーズに合った柔軟な対応をする。

〈実施状況〉

● 要望の収集

- ・ 苦情の処理体制の構築、ご意見箱の設置（総計 16 件）
- ・ 利用報告書記載の意見を職員間で共有
- ・ 消毒液の設置

● 要望・苦情の反映

- ・ ご意見箱と利用報告書記載の要望・意見について職員間で協議し、利用者への対応改善を図りました。

● 接客技術の向上・研修の実施

- ・ 10/26（水）接客研修 10 名

● PDCA サイクルの実践

- ・ 半期ごとにマニュアルやルール・様式を見直し、ソフトの面からサービスの向上を図りました。

● 設備・備品の導入

コートハンガー／サーキュレーター／Wifi



■ JAL による接客研修



■ サーキュレーターの導入



■ 新 wifi の導入

〈成果〉

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底して行い、安心して利用できる空間づくりに注力しました。とくにサーキュレーターを取り入れ、室内の空気循環の向上に努めました。また利用者の視点に立った公平で迅速・的確なサービスの向上を図るため、利用報告に書かれた要望・苦情を真摯に受け止め、対応の改善を図り、特に今年度は大人数のイベント時の利用や冬の時期にコートハンガーがよく利用されました。またセンター事業をはじめ利用団体の活動もハイブリッド・オンライン化していく中で、FukuokaCityWifi にかわる新しい Wifi を導入し、それによって、これまでであった「繋がりにくい」「途切れる」といったお声はなくなり、インターネット環境の改善ならびに利用者満足度の向上につながりました。

A	7-3	団体登録の更新	7:窓口・サービス
---	-----	---------	-----------

〈目的〉

団体とのコミュニケーションを図る。団体ヒアリングを行い、利用者満足度を測る。また団体の運営状況やスキル把握に努め、利用者に向けたサービスの向上を図る。

〈実施状況〉

● 団体登録の更新手続き

- ・更新対象団体数：448
- ・更新団体数：375（内訳：窓口受付：247、郵送受付：128）
- ・抹消団体数：73（内訳：抹消：4、未更新69）

〈成果〉

昨年度に引き続き、窓口だけでなく郵送での受付を行いました。更新の書類を再度見直し、簡素化できる箇所に工夫を加えたことで、更新の手続きに関する問い合わせ等は昨年度より減少し、結果としてスムーズに更新の手続きを進めることができました。また館内掲示やホームページ、メールマガジンなどでも、更新についての周知を行い、更新対象団体の約80%の団体(375団体)の更新を受付しました。

A	7-4 ユニバーサルデザインの推進	7:窓口・サービス
---	-------------------	-----------

〈目的〉

利用者に対するサービスの質を「使いやすさ」と「安心」という二つの視点で見直し、サービスの質の高い施設づくりを行う。利用者ニーズを正確に掴み、ニーズを果たす。

〈実施状況〉

●使いやすさ

- ・窓口のデスクマットに年間のカレンダーと、セミナールーム・会議室の予約時のチェック事項、貸し出せる備品一覧を設置しました。一目で欲しい情報がわかるように工夫しました。
- ・ハジメのイッポの申込に来られた際に、活動紹介のリーフレット（配布用）を開きづらそうにされていた方がいたため、上部にカットを入れ、片手でも開きやすいようにしました。
- ・大判印刷の使い方の動画を館内で流しました。機械が苦手な方でも、使い方が簡単で直観的にわかることを意識しました。

●安心

- ・セミナールーム・会議室の利用状況を表示しているデジサイのフォントをUDゴシックに変更し、誰もが読みやすいデジサイにしました。

〈成果〉

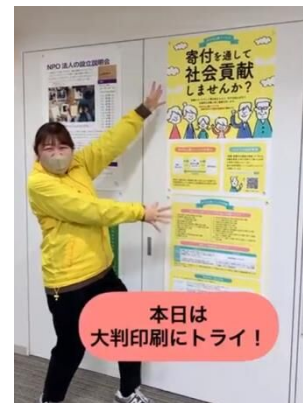
館内サービスや設備・備品の配置などについて定期的に見直し、ユニバーサルデザインの推進を図りました。あすみんのサービスや、利用対象者層を見直すと身近なところにもユニバーサルデザインの視点がありそうです。とくに最近ではコロナが緩和されてきて、日本語クラスが復活し、外国人利用者も戻ってきました。今後もユニバーサルデザインの7つの原則にそって、より使いやすい施設を目指し改善を図っていきます。



■予約時に確認したい情報をまとめたデスクマット



■開きやすいように工夫したリーフレット



■大判印刷の使い方のショート動画

A	7-5 施設機能の活用促進	7:窓口・サービス
---	---------------	-----------

〈目的〉

利用者が「何を望んでいるのか」「何が必要なのか」などのニーズを正確に掴み、すぐに運営に反映できる環境を提供することを目的とします。

〈実施状況〉

●コミネット

- ・開館時間変更に伴いコミネット予約システムを新しい時間区分に移行。

●チラシの作成

- ・開館時間変更に伴い案内チラシの作成、配架。

●9時から10時まで、21時から22時までの来館者のカウント

- ・9時から10時までの来館者数（4月～3月）：2,588人
- ・21時から22時までの来館者数（4月～3月）：2,346人



■9時開館試行の取り組みについて



■開館時間変更のお知らせ

〈成果〉

4月からの試行期間終了に伴い、コミネット予約システムを新しい時間区分に対応したシステムへ移行しました。開館時間が10時に戻ることに関しては、残念との声もありましたが、2月に取った利用者アンケートでは、あすみの利用時間は、12:00～18:00が一番多いという結果になり、10:00からの開館でもあまり影響がないことがわかりました。

A	7-6 カスタマーハラスメント対策	7:窓口・サービス
---	-------------------	-----------

〈目的〉

カスタマーハラスメントに正面から向き合うためのチームを構築する。どのような状況に見舞われた際にも毅然とした対応で公平性が保てるように、カスハラ対策マニュアルを整備し、その方策の周知に努める。

〈実施状況〉

● カスタマーハラスメントマニュアルの確認

厚生労働省の発行「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル」を再確認しました。また、既存の相談フローの確認として、休館日の職員研修のなかで、受付・管理、責任者、事務局長、センター長と、それぞれの役割を洗い出して共有しチームの方向性を確認しました。相談等の状況に応じて最適な人材が対応できるように流れを決めて、チームで対応出来る仕組みと、職員の安心を確保出来るようなフローにしました。

● カスタマーハラスメント対策セミナーへの参加（福岡商工会議所）

カスタマーハラスメントの体験談から学ぶ法律・社員や企業へもたらす影響についての内容についてのセミナーに職員が参加しました。

● 相談・要望の共有の場の仕組みづくり

毎月の休館日に実施する職員会議の議題の一つとして、事前に不安や改善したい内容を職員から集めて、改善点や対応策を協議する時間を設け、初期段階で検討できる仕組みを作りました。



■カスタマーハラスメント対策企業マニュアル(厚生労働省)

〈成果〉

今年度は、新人職員やアルバイトが多く配置される中で、安心して受付対応できるように、カスタマーハラスメントが発生しやすい「窓口対応」にフォーカスして、役職・役割に応じた対応を協議して共有しました。特に相談や訪問者の対応などチームで物事に対応できる仕組みとして、役職に応じた対応を決めてフォローできる体制を作りました。

B：情報部門の事業

B1. メディアを活用した情報発信事業

- 1-1. ホームページの運用
- 1-2. ソーシャルメディアの活用
- 1-3. メールマガジンの配信
- 1-4. 情報誌の発行
- 1-5. 情報発信の効果検証

B2. 施設利用促進事業

- 2-1. 情報を通じた施設利用促進
- 2-2. 団体・活動の広報サポート
- 2-3. チラシ・パンフレットの作成・配布
- 2-4. プレスリリース・パブリシティの促進

B3. 市民公益活動の情報発信

- 3-1. 図書・資料の収集および情報提供
- 3-2. 助成金情報の収集
- 3-3. ボランティア情報の提供
- 3-4. ハローソーシャル
- 3-5. 市民活動ナレッジバンク

B	1-1 ホームページの運用	1:メディアを活用した情報発信事業
---	---------------	-------------------

〈目的〉

登録団体の活動やイベントをはじめ、ボランティア情報や助成金情報など、さまざまな視点から市民公益活動を紹介し、あすみんの利用価値の向上や市民公益活動の促進につなげる。

〈実施状況〉

●運営概要

【あすみんによる更新】

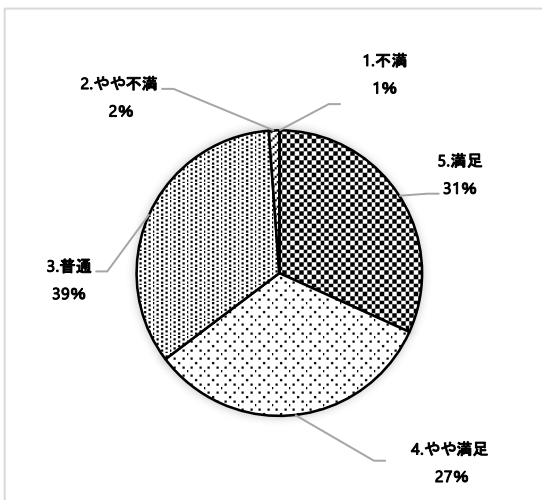
- ・更新回数 253件
- （内訳）記事更新件数：108件
- HP機能・デザイン更新：77件
- メールマガジン：25件
- 助成金情報：43件

【登録団体による投稿】

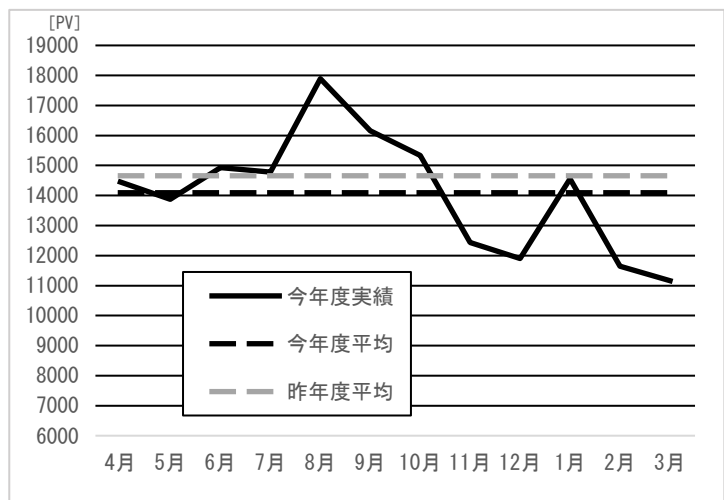
- ・投稿回数（登録団体・イベント）131件
- ・投稿団体数（イベント）95団体
- ・投稿回数（登録団体・ボランティア）63件
- ・投稿団体数（ボランティア）47団体
- ・閲覧数 169,118PV



■公式ホームページ(TOP)



■利用者アンケートのホームページの満足度



■あすみん HP のアクセス数

〈成果〉

トルコ地震の義援金募集など、公式 SNS と連携して、時事に対して市民が求める情報がいち早く届くように努めました。また、各種イベントや講座・相談、台風に伴う臨時休館、開館時間の変更など、随時情報を更新し、WEB サイトを訪れた人に最新の情報を提供することを心がけました。新しい取り組みである「あすみん Wi-Fi」や「オンラインミニレクチャー」を、年間を通して広報することで徐々に利用者への浸透率を上げていきました。コロナによる社会への影響が徐々に落ち着いていく中でも、一定数あるオンラインのニーズに対してセンターのサービスをアピールすることを続けました。

B	1-2	ソーシャルメディアの活用	1:メディアを活用した情報発信事業
---	-----	--------------	-------------------

〈目的〉

フェイスブックやツイッターなどの SNS を活用し、利用者に最新のリアルタイムな情報を発信する。

〈実施状況〉

● Facebook

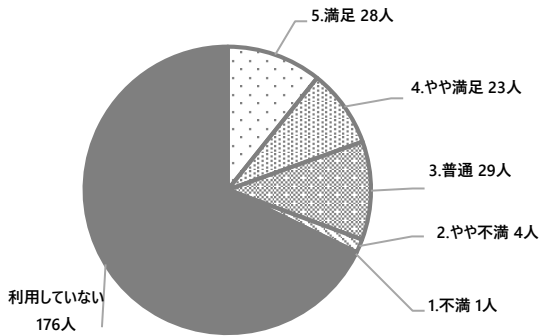
- ・ 日常のセンターの様子や事業の案内、市民公益活動に関する情報などをリアルタイムに掲載。
- ・ 職員が写った写真を活用したり、動画で使い方を発信したりと工夫を施した投稿を行いました。
- ・ 更新回数：452 回
- ・ 記事へのいいね数：8,367 いいね
- ・ 閲覧回数：113,834PV

● Twitter

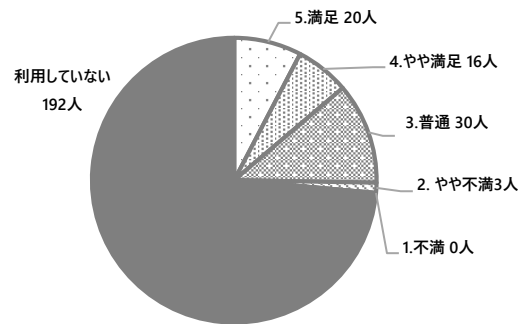
- ・ ホームページや Facebook と連動した情報を発信
- ・ 更新回数：629 回
- ・ 閲覧回数：154,354PV



■あすみん Facebook



■利用者アンケートの Facebook 満足度



■利用者アンケートの twitter 満足度

〈成果〉

SNS で発信する情報の内容や投稿回数を見直しを図りました。年間を通じてリーチ数の高かった情報は「なんでも相談」や「NPO 基盤強化講座」、「NPO 広報講座」だったことから、あすみん開催講座に対する期待やニーズが高いことがわかります。また、情報がより見られる工夫として、SNS でのリアル動画やストーリーズの活用にも着手しました。次年度はさらに instagram や YOUTUBE などにも着手し、各メディアの特性を活かした情報発信を検討していきます。

B	1-3	メールマガジンの配信	1:メディアを活用した情報発信事業
---	-----	------------	-------------------

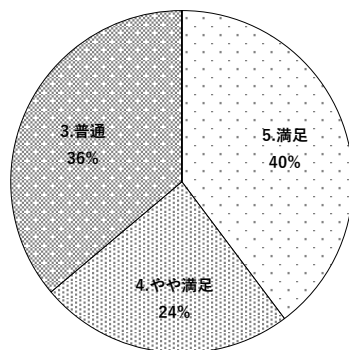
〈目的〉

助成金や講座・イベントなどの情報を定期的に発信し、団体運営の向上や施設利用の促進につなげる。

〈実施状況〉

●詳細

- ・発行日：毎月2回（5日、20日）
- ・発行回数：24回
- ・送信件数：47,416件
- ・満足度：五段階評価中「5満足」「4やや満足」の合計が64%
（利用者アンケート：情報ツールの満足度「メールマガジン」）



■利用者アンケート情報ツールの満足度：メールマガジン

配信日	号数	配信数	開封率	
			%	実数
4月5日	511	1954	28.5	556
4月20日	512	1953	31.7	619
5月5日	513	1957	25.0	489
5月20日	514	1942	28.3	549
6月5日	515	1941	29.0	562
6月20日	516	1963	29.9	586
7月5日	517	1954	26.2	511
7月20日	518	1961	27.1	531
8月5日	519	1959	30.6	599
8月20日	520	1958	28.9	565
9月5日	521	1976	25.0	494
9月20日	522	1977	29.0	573
10月5日	523	1979	30.1	595
10月20日	524	1988	26.4	525
11月5日	525	1985	30.7	611
11月20日	526	1991	31.5	628
12月5日	527	1987	26.7	532
12月20日	528	1990	23.9	476
1月5日	529	1993	32.8	654
1月20日	530	1994	26.4	527
2月5日	531	1996	26.8	535
2月20日	532	2000	29.8	595
3月5日	533	2011	31.6	636
3月20日	534	2007	26.0	523

■メール開封率

〈成果〉

昨年度よりはじめた HTML メールの開封率を一年間調査しました。結果、開封率は毎号 25%以上あり、多くの方に見られていました。特に、基盤強化講座や、あすみんステージなどのイベント時の開封率が高く、情報を届けるために有効なツールであることが分かりました。

B	1-4 情報誌の発行	1:メディアを活用した情報発信事業
---	------------	-------------------

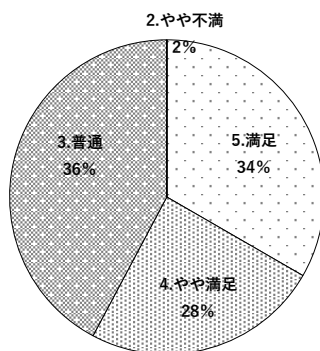
〈目的〉

季刊で発行する情報誌を自主制作し、特集の記事やインタビューを通して、市民公益活動に関する情報や意義を広く伝え、福岡における市民公益活動の活性化や理解の促進を図る。

〈実施状況〉

●概要

- ・発行回数：年4回季刊での発行 6月、9月、12月、3月
- ・発行部数：各3,000部を印刷。
- ・送付部数：3,125部（登録団体のほか、全国のサポートセンターなどに配布）



■利用者アンケート情報ツールの満足度: あすみん情報誌

〈成果〉

NPO・ボランティア団体に向けて、センター機能の周知や市民公益活動に関する情報提供を目的とした情報誌「あすみんノート」を年間4回発行しました。今年度はあすみんが設置されて20周年を迎えた節目の年であったため、これまであすみんとかかわりが深かった団体を中心に特集を組みました。28号では、ウクライナなど世界規模の課題が注目されている中、長年にわたり国際問題について取り組んでいる団体を、29～31号ではGOOD ACTIVITY FESTIVALや基盤強化講座などのあすみん事業に関連した団体の特集し、タイムリーなテーマや事業と関連づけた団体を取り上げたことで、効果的に団体との読者づくりができました。また、メールマガジンでもあすみんノート発行の記事を掲載し、より多くの方へ届く工夫をしました。



■あすみんノート(28号～31号表紙)

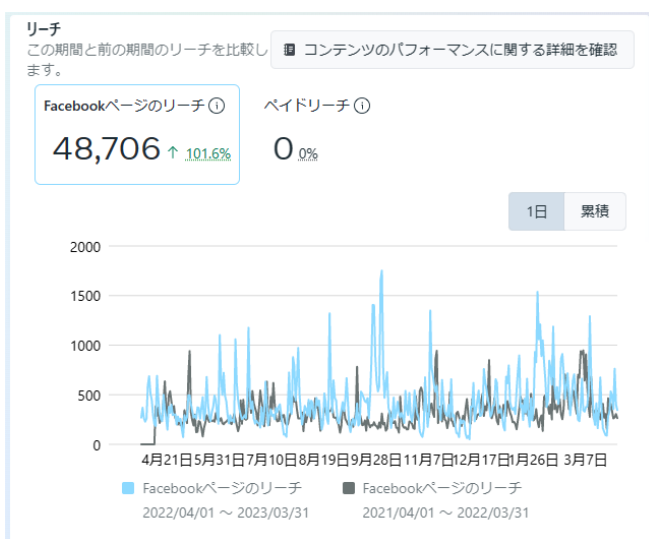
B	1-5	情報発信の効果検証	1:メディアを活用した情報発信事業
---	-----	-----------	-------------------

〈目的〉

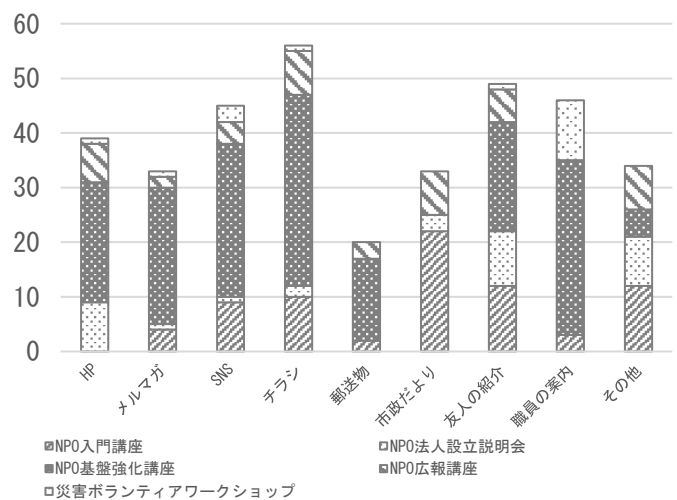
各種広報ツールの効果測定を通して情報発信の効果を検証し、対象者のニーズを捉えた十分な情報提供を促進する。

〈実施状況〉

- アクセス解析の実施
 - ・ ホームページや SNS の効果測定やデータ収集を行う
- アンケート解析の実施
 - ・ メルマガ、チラシ、情報発信ツールの効果測定やデータ収集を行う
- 事業や講座ごとのアンケート解析の実施
 - ・ 利用者がどのメディアを通して事業や講座に参加したかを解析



■ あずみんホームページへのアクセス解析



■ 各種講座につながるきっかけになった情報ツール

〈成果〉

今年度、SNS の投稿頻度や内容の見直しを図ったので、投稿件数は昨年度比減少しましたが、Facebook ページへのリーチ数は 101.6%アップし、質の高い情報を利用者へ届けることができていることが読み取れます。

また今年度は講座や講演会のほとんどをハイブリッドで開催しました。リアル参加よりもオンラインの参加の方が参加者が多いといった回も珍しくなく、自宅から気軽に講座に参加できるという利点が講座の参加者回復につながりました。密にならない点も、主催者・参加者にとってはよかったです。

オンラインが活性化した世の中においても、「イベント・講座を知った経緯」で上位だったのは、「職員による声掛け」と「チラシ」でした。あずみんの利用者はオンラインに対し苦手意識の高いシニアが多いことをうけての結果だと予測されます。

しかしながら、利用者とのコミュニケーションを第一に考える我々にとってはよき成果であるともいえます。今後も、利用者へどのようにすれば有益な情報提供ができるのかを適宜分析しながら、質の高い情報提供に努めます。

B	2-1 情報を通した施設利用促進	2:施設利用促進事業
---	------------------	------------

〈目的〉

市民公益活動に関心のある市民に、センターの機能や団体登録のメリットを PR する。登録団体に向けてセンターの活用方法を PR する。センターが実施する講座等で設備の使い方や団体のサポート策を説明し、施設の利用促進を促す。

〈実施状況〉

●施設活用の PR

- ・ HP や SNS、館内掲示を使って、開館時間の変更に関する情報を告知
- ・ 講座やイベントの中であすみんを紹介
- ・ 効果的な情報発信を狙って、情報コーナーの配置を変更
- ・ 毎月、デジタルサイネージの情報を更新

●講座やイベントの PR

- ・ 情報コーナーの壁面を利用し、講座やイベントの大判ポスターを掲示
- ・ Facebook のイベントページを活用した講座やイベントの配信
- ・ ビル1階のエレベーター前に案内板の設置（西鉄所有の案内板の利用）
- ・ 他施設のイベント時に「Good Activity Festival」の告知

●登録団体へメールの配信

- ・ メルマガとは別に、イベント情報メールを希望する登録団体に、あすみん主催の講座やイベント情報を配信

●他媒体の活用

- ・ 毎日新聞にカレンダー配布の紹介記事掲載
- ・ 西日本新聞 me にイベント情報を掲載
- ・ ふくおか生涯学習ひろばに講座情報を掲載
- ・ まなびアイふくおかに講座情報を掲載
- ・ 市政だよりに講座情報を掲載

〈成果〉

昨年度に引き続き、「ふくおか生涯学習ひろば」「西日本新聞 me」「まなびアイふくおか」など、外部の媒体も活用して、あすみんのイベント、講座等の利用促進をはかりました。また、「福岡市西部地域交流センター」で開かれたイベント時に、「グッドアクティビティフェスティバル」の告知のため、パンフレットやチラシを配架し、イベントの集客をしました。

B	2-2 団体・活動の広報サポート	2:施設利用促進事業
---	------------------	------------

〈目的〉

登録団体の活動を案内・支援する場所として、情報スペースの壁面を利用し、ポスターの掲載やチラシ・パンフレットの配架を行う。SNS を使い、登録団体の活動の広報をサポートする。

〈実施状況〉

●配架・掲示の利用受付

- ・館内壁面などに登録団体内のイベント広報物を配架・掲示
- ・情報（チラシ）受付件数：906 件
（登録団体：247 件、市民活動支援センター：143 件、福岡市関連情報：251 件、助成金・事業公募など：63 件、その他：202 件）
- ・登録団体のチラシ・パンフレットの掲示・配架の利用状況：115 団体（実数）

●SNS での登録団体の活動紹介件数

- ・Facebook での団体紹介件数：60 件
- ・Twitter での団体紹介件数：178 件



■レイアウト変更後のチラシラック



■Twitter で団体イベント告知

〈成果〉

SNS における団体イベント情報の提供方法を見直し、具体的な活動については、Twitter で、団体自体の紹介については、Facebook を使って紹介するようにしました。これまでバラバラで使っていたものを整理することで、情報の案内がしやすくなりました。館内チラシについては、数ヶ月に一回レイアウトの配置を変更させ、より多くの人へ届ける工夫をしました。また、メールマガジンでのイベント紹介の方法への問い合わせを多くいただき、団体の広報ツールとしてもあすみんなが浸透しつつあるようです。

B	2-3	チラシ・パンフレットの作成・配布	2:施設利用促進事業
---	-----	------------------	------------

〈目的〉

利用案内に関するチラシを作成、配布する。施設紹介に関するパンフレットを効果的に配布する。

〈実施状況〉

●作成件数（部数）：合計 38 件（25,050 部）

作成部数内訳

・チラシ：13,050 部

専門相談チラシ：2,200 部、NPO 入門講座チラシ：1,600 枚、ボランティア講座チラシ：2,800 部、
NPO 広報講座チラシ：950 部、先輩 NPO に聞いてみようチラシ：500 部、あすみん交流会チラシ：900 部、
あすみんステージチラシ：1,500 部、基調講演：600 部、GAF 広報チラシ：500 部、あすみんマルシェ 100 部、
災害ボランティアワークショップチラシ：200 部、NPO 基盤強化講座チラシ：600 部

利用時間変更のお知らせチラシ：600 部

・あすみんノート：12,000 部

●配布先

NPO 法人設立説明会参加者、ボランティア講座参加者、新規登録団体、麻生公務員専門学校、
オリオンテラスオープニングイベント、神戸市市役所視察、福岡市医師看護専門学校、
あおぞら高等学院福岡キャンパス、福岡市中央児童会館あいくる、JACA デスク、情報プラザ、dlab、
西部地域交流センター、町内便（福岡市の各施設 40 か所）、各校区公民館

〈成果〉

これまであすみんノートで使っていた庁内便を、イベントや講座のチラシ配布にも活用することで、これまでよりも多くの人に触れる機会を作りました。また、西部地域交流センターのイベント時にグッドアクティビティフェスティバルの広報チラシの配布を行ったり、出前講座でハジメのイッポのチラシを配布するなど、外へ向けて効果的な配布を図りました。

B	2-4	プレスリリース・パブリシティの促進	2:施設利用促進事業
---	-----	-------------------	------------

〈目的〉

講座やイベントの開催時などにメディア各社にプレスリリースを送付し、福岡市の市民公益活動を広く市民に伝えることで、あすみの来館・利用促進を図る。

〈実施状況〉

	名称	リリース先	媒体
4月	NPO入門講座	新聞社 web	web
5月	ボランティア講座	新聞社 web	Web
7月	あすみんステージ	新聞社 web	Web
		ふくおか学習障害ひろば	Web
8月	ボランティア講座	新聞社 web	Web
		ふくおか学習障害ひろば	Web
	広報講座	ふくおか学習障害ひろば	Web
9月	グッドアクティビティフェスティバル 2022	新聞社 web	Web
	〃 (学生ボランティアミーティング)	ふくおか学習障害ひろば	Web
	〃 (あすみんステージ)	ふくおか学習障害ひろば	Web
	〃 (マルシェ)	ふくおか学習障害ひろば	Web
	〃 (記念講演会)	ふくおか学習障害ひろば	Web
	広報講座	ふくおか学習障害ひろば	Web
10月	NPO入門講座	ふくおか学習障害ひろば	Web
	先輩NPOに聞いてみよう！	ふくおか学習障害ひろば	Web
11月	災害ボランティアワークショップ 2022	毎日新聞	紙媒体
		ふくおか学習障害ひろば	Web
	先輩NPOに聞いてみよう！	まなびアイふくおか	Web
		ふくおか学習障害ひろば	Web
12月	ボランティア講座	西日本新聞 me	Web
		ふくおか学習障害ひろば	Web
	NPO入門講座	西日本新聞 me	Web
		まなびアイふくおか	Web
	NPO 基盤強化講座	西日本新聞 me	Web
		ふくおか学習障害ひろば	Web
		まなびアイふくおか	Web

	名称	リリース先	媒体	
1月	先輩NPOに聞いてみよう！	西日本新聞 me	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
	あすみん交流会	西日本新聞 me	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
	NPO 基盤強化講座	ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
		ボランティア講座	ふくおか学習障害ひろば	Web
	2月	あすみん交流会	西日本新聞 me	Web
ふくおか学習障害ひろば			Web	
まなびアイふくおか			Web	
あすみんステージ		西日本新聞 me	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
先輩NPOに聞いてみよう！		NPO入門講座	西日本新聞 me	Web
			ふくおか学習障害ひろば	Web
		ボランティア講座	まなびアイふくおか	Web
			ふくおか学習障害ひろば	Web
	先輩NPOに聞いてみよう！	NPO入門講座	西日本新聞 me	Web
			ふくおか学習障害ひろば	Web
ボランティア講座		まなびアイふくおか	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
3月	先輩NPOに聞いてみよう！	西日本新聞 me	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
	NPO 広報講座	西日本新聞 me	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
	NPO入門講座	西日本新聞 me	Web	
		まなびアイふくおか	Web	
		ふくおか学習障害ひろば	Web	
	ボランティア講座	まなびアイふくおか	Web	
ふくおか学習障害ひろば		Web		

〈成果〉

今年度は、これまでつながりのあった新聞社などにも協力を呼びかけながら、複数のイベントにおいてプレスリリースを発行し、「ふくおか生涯学習ひろば」「まなびアイふくおか」「西日本新聞 me」などのメディアで情報掲示をして頂きました。

〈目的〉

地域の共創や NPO との連携、企業の CSR 活動、SDGs の達成に向けた取り組みなど、市民公益活動につながる取り組みや情報を収集し、登録団体や市民公益活動に興味がある市民に向けて、資料提供や情報発信を行うことで市民の活動への促進や連携を図る。

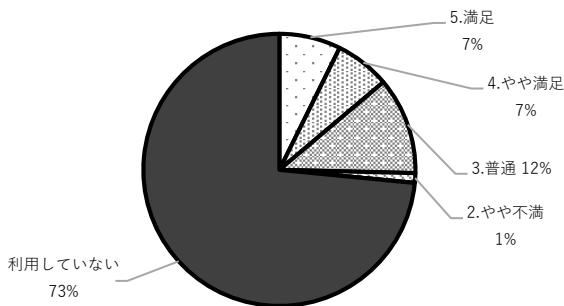
〈実施状況〉

●年間購読：2誌

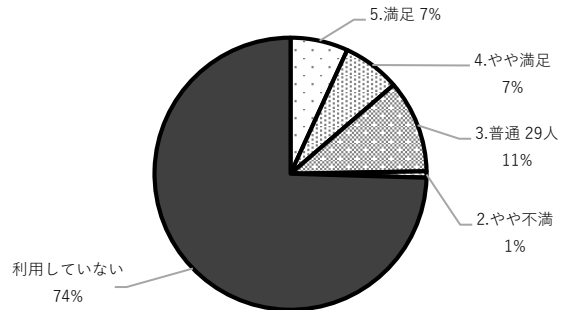
「ウォロ」「ソトコト」

●図書購入数：2冊

- ・「あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣」原貴太
- ・「子どもたちがつくる町 大阪・西成の子育て支援」村上靖彦



■図書 満足度



■新聞等 満足度



■書籍の購入・紹介



■ジャンル別のチラシラック



■新聞3紙の配架



■CSRレポートの展示

〈成果〉

新聞・書籍の配架のなか、地域活動や公民館活動に関する情報の収集などを行いました。利用者の視点に立って館内の情報の配置を再検討し、本棚やラックのレイアウトを随時変更しました。より直感的に情報を探ることができるよう、チラシラックはジャンル別に分類・色分けし、本棚の配置はイベントなどに合わせて配置換えをしました。また、CSRレポートの閲覧方法を見直し、展示する形でCSR・CSV information コーナーを設置しました。一方でアンケートの結果より「利用していない」の回答は去年に引き続き7割以上であり、いまだに周知できていないという課題もあり、引き続き利用者の視点に立ちながら、利活用しやすいコーナーづくりに取り組みます。

B	3-2 助成金情報の提供	3:市民公益活動の情報発信
---	--------------	---------------

〈目的〉

全国から助成金・寄付金・クラウドファンディングの情報を収集し、その体系化と見える化を図る。HP や SNS、掲示板を活用した情報提供を行う。

〈実施状況〉

- 助成金情報を収集する（毎週火曜日）
 - ・ 火曜日の定期収集日以外にも、メールや郵送物からの収集を行い、年間 70 回、276 件の収集結果となりました。
- 館内に助成金情報を掲示する
 - ・ 毎月 2 回の掲示を行い、148 件の情報を提供しました。
 - ・ 掲示物を分野ごとに分け、見やすくなるように工夫しました。
- 館内に寄付金・クラウドファンディング情報を掲示する（随時）
 - ・ 身近で必要とされている寄付金・クラウドファンディングの情報を提供しました。
- 助成金情報を SNS（Facebook）に投稿する（毎週金曜日）
 - ・ 年間を通して 90 回（毎回 1 件）の情報提供を行いました。
- 助成金情報をあすみん HP に投稿する
 - ・ 毎月 4 回程度の投稿を行い、年間 173 件の情報提供を行いました。
 - ・ 館内掲示と HP で紹介する助成金情報の統一を行い、デジタルが苦手な人も同じ情報を得られるようにしました。



■HP 助成金情報トップバナー



■助成金情報掲示板

〈成果〉

今年度は情報の整理を中心に行いました。館内、SNS、HP、メルマガで紹介する助成金の内容を統一し、どこへアクセスしても内容に漏れがないように工夫しました。HP では、これまでレポートページのみにあげていた助成金情報を、イベントページ、TOP スライダーにも掲載することで、多くの方が助成金情報へ触れる機会を作りました。

B	3-3 ボランティア情報の提供	3:市民公益活動の情報発信
---	-----------------	---------------

〈目的〉

登録団体や市民公益活動に興味がある市民に向けて、新聞、書籍、雑誌等に掲載された社会課題や NPO・ボランティア関連情報を収集・提供し、市民公益活動の周知・推進に役立てる。

〈実施状況〉

●ハジメのイッポの周知

- ・プログラムをカード型にして館内に掲示（件数：47件（3月末時点））
- ・アラカンフェスタ出展時にご案内
- ・福岡地区：しごと・ボランティア合同説明会出展時にご案内

●公民館だよりのボランティア募集情報の掲示

- ・あすみんボランティアのプログラムとして
- ・インターンシップのプログラム「情報部門」の業務として

●ボランティア募集チラシの館内配架

- ・あすみん登録団体
- ・公共施設関連
- ・NPO 関連団体

●その他情報発信

- ・館内掲示：ハローソーシャルの求人 39件掲載（3月末時点）
- ・ホームページ：ボランティア募集投稿 70件（3月末時点）
- ・SNS (facebook)：5件（3月末時点）
- 10月17日 ボランティア情報掲載！（夏季インターンシップ）
- 11月08日 世界水泳ボランティア追加募集
- 11月25日 サンタクロースボランティア大募集！
- 12月04日 みんなで警固公園にチューリップ球根 500個を植えます！
- 01月23日 公民館だよりのボランティア情報1月分を掲示中！



■館内掲示

〈成果〉

あすみんボランティアの方には、公民館だよりに掲載しているボランティア情報の切り抜きを、インターンシップの学生には各区のボランティア募集情報をまとめた掲示物を館内に掲載しました。また、団体や各施設から依頼のあったボランティア募集チラシを集約し、ラックに配架しました。また様々な世代（大学生・60歳以上）に関わってもらうことで、メッセージ性の高い情報発信になりました。また、ハジメのイッポ、ハローソーシャル、ボランティア情報ラックといった、ボランティアに関する情報を必要に応じて明確に案内できるエリアを構築することができ、よりスムーズに相談への対応ができるよう向上しました。

B	3-4	ハローソーシャル	3:市民公益活動の情報発信
---	-----	----------	---------------

〈目的〉

NPO、ボランティア団体等の求人について情報面で支援し、市民活動に参加したい人と活動とのマッチングを図る。来館者は興味のある募集にあすみんを通すことなく気軽に応募できるよう、募集元団体の連絡先を掲載するなど情報を整備する。

〈実施状況〉

●求人票・志人票の掲示

- ・年間掲示件数（12ヶ月合計）：567件
- 求人票：468件
- 志人票：99件

●新規情報の収集

- ・新規情報件数
- 求人票：0件
- 志人票：4件（6月2件、10月1件、3月1件）

〈成果〉

気軽に市民活動に参加できる窓口の一つとして、求人票と志人票を掲載しました。求人票の掲示団体から、「あすみんで情報を見て連絡された方がいた」という報告もあり、ハローソーシャルをきっかけに市民活動へ参加される方が一定数いること見受けられました。

今年度の特徴としては志人票に関する相談が多く、年間を通して4件のプログラムが新規で追加されるなど、「自分のスキルを活かして、何か活動を始めてみたい」「自分の経験を社会で活かしたい」といった方の参加が見受けられました。ハローソーシャルの掲示を通して、市民に各団体の情報を届けることができ、市民活動に参加したい人と市民活動団体とのマッチングを図ることができました。

B	3-5	市民活動ナレッジバンク	3:市民公益活動の情報発信
---	-----	-------------	---------------

〈目的〉

市民公益活動に関する様々な情報を収集し、提供する。用語などの情報を紹介するためのツール「市民活動wiki（仮）」の企画・実装を進める。全国の市民活動従事者との連携を進め、提供する情報内容の向上につなげる。

〈実施状況〉

●情報の収集・提供方法についての企画づくり

- ・市民公益活動に関する情報の収集から紹介までの流れと、提供の方法について検討した。市民活動ナレッジバンクの実装に対して、どのようなデジタルツールを使うことが望ましいかを比較・検討した。

●市民公益活動に関係する用語の収集および外部サービスについての調査

- ・市民公益活動に関係する用語をインターネットを中心に100個収集・整理し、「市民活動wiki（仮）」サイトのデータベースづくりに向けて準備を行った。
- ・wikiを提供している外部サービスを利用した場合について、市民活動ナレッジバンクの仕組みの実装や記事の投稿・運用について調査を行った。

		意味	URL
1	CSR	企業の社会的責任とは、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任のことである。	https://ideasforgood.jp/glossary/csr/
2	CSV	企業における経済的な価値創出だけでなく、社会と共有の価値を創造していくことが目指される。CSVは社会価値を生み出すために様々な活動を自らが積極的に起こし、協業していく価値創造の実践が基本。	https://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/001467.php
3	DBO	DBOとは、Design Build and Operateの略で、民間事業者が対象施設の設計（Design）と建設（Build）及び運営（Operate）を一括して行う方式で、一般に既存施設の改築更新整備を行う場合に適用されます。通常の公共工事発注は、設計と建設は分離発注され、工事完了後に管理運営を発注しますが、こうした発注を分離せず、一括して一者に発注する方式です。	https://www.japanwater.co.jp/concession/yougosyu/pppsuho/dbo
4	DMO	DMOとは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。Destination Management Organization（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）の頭文字の略。DMCはDestination Management Company（デスティネーション・マネージメント・カンパニー）の略。 観光庁が規定した日本版DMOは以下の通り。 『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』	https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/dmo/
5	DX	DX (Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション) とは、進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のことです。	https://www.i-learning.jp/topics/column/useful/digitaltransformation.html
6	LGBTQ	実は、LGBTがレスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーそれぞれの頭文字をとっているように、「Q」も「クエスチョニング」「クィア」という2つの言葉の頭文字をとっています。	https://jbrainbow.jp/magazine/queerandquestioning
7	LOHAS (ロハス)	LOHAS (ロハス) とは、「Lifestyles of Health and Sustainability」の略語で、直訳すると「健康的で持続可能な生活様式」	https://ideasforgood.jp/glossary/lohas/
8	NGO	政府間協定によらずに設立された国際協力組織。非政府組織。	https://www.benesse-gic.com/special/global/884
9	NPO	民間の、営利を目的とせず社会的活動を行う団体。	https://www.npo-homepage.go.jp
10	PFI	公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方で。	https://www.pfikoikai.or.jp/about/

■市民公益活動に関係する用語

〈成果〉

市民活動ナレッジバンクの実装と運用に向けて、デジタルツールの利用を中心に、情報の収集から提供・管理の流れを企画し、外部の wiki 作成サービスや WEB サイトなどの活用について調査・検討を行いました。また、インターネットを活用した情報の収集・整理を行い、データベースの基盤を構築しました。

C：事業部門の事業

C1. 市民公益活動に関する相談

- 1-1. 一般相談
- 1-2. 市民活動相談
- 1-3. 会計・税務個別相談

C2. 市民公益活動に関する研修及び講座の実施

- 2-1. NPO 入門講座
- 2-2. ボランティア講座
- 2-3. NPO 基盤強化講座
- 2-4. NPO 広報講座
- 2-5. NPO 法人設立説明会
- 2-6. NPO 向けのオンライン使い方講座

C3. 市民公益活動を推進する交流連携

- 3-1. あすみん交流会
- 3-2. 新規登録団体交流会
- 3-3. 市民活動・ボランティアフォーラム
- 3-4. 社会貢献企業の見える化
- 3-5. 市民公益活動に関する取組の開催誘致
- 3-6. 他施設・他組織との連携
- 3-7. 先輩 NPO に聞いてみよう
- 3-8. あすみんステージ
- 3-9. 全国のサポートセンターとの連携
- 3-10. 公益活動団体同士の共働の推進
- 3-11. あすみんミュージアム

C4. 災害時のボランティア等への活動支援

- 4-1. 災害ボランティア・防災情報の提供
- 4-2. 災害ボランティアワークショップ
- 4-3. 災害ボランティア養成講座

C5. NPO・ボランティア体験事業

- 5-1. NPO・ボランティア体験プログラム
- 5-2. ボランティア体験コーディネート

C6. ライフサイクルを通じた公益力の育成

- 6-1. はじめてのボランティア教室
- 6-2. 学生ボランティアミーティング
- 6-3. 職場体験・インターンの受入れ
- 6-4. 寄付ボックスの設置
- 6-5. 子ども一日ボランティア
- 6-6. SDGs 勉強会

C7. 市民公益活動に関する調査及び研究

- 7-1. 「市民活動を対象とした助成金」に関する調査研究
- 7-2. 「企業による市民公益活動」に関する調査研究

C8. 自主事業

- 8-1. ソーシャルショップ
- 8-2. あすみんオーダー講座
- 8-3. 出張相談
- 8-4. 自動販売機の設置・販売
- 8-5. あすみんサブスク
- 8-6. 事務用品、印刷サービスの販売
- 8-7. 遺贈相談窓口の設置

C	1-1	一般相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	------	----------------

〈目的〉

わかりやすい相談対応を行い、市民公益活動を始めるきっかけづくりや適切な案内を行う。

〈実施状況〉

- 相談件数
 - ・430件（月平均36件の相談対応、相談目標件数：400件）
 - ・相談件数のうち、電話60%、来館40%
- 対応件数分類
 - ・来館：170件 ・電話：252件 ・メール・FAX：8件
- 相談内容（右図参照）
 - ・施設利用案内 ・NPO等の団体情報の提供
 - ・ボランティア活動紹介 ・行政等の各種機関の窓口紹介
 - ・団体運営に関する相談 ・各種事業案内など
- 相談対応
 - ・対応スタッフ：12名（2023年3月末時点）
 - ・要望があれば随時対応
 - ・来館者には受付窓口またはミーティングスペースにて対応

相談種類別集計	
種類	件数
あすみん業務案内	18
要望・提案	35
利用登録	36
団体情報	67
ボランティア情報	105
ボランティア・NPOとは	4
NPO法人関連情報	9
NPO法人設立手続	16
団体運営	40
助成金・寄付	22
事業・講座運営	2
広報活動	10
共働	2
その他	64
合 計	430

相談者の主体別集計	
主体	件数
一般	196
NPO・ボランティア団体	150
行政	18
自治組織	8
企業	29
学校	14
その他	15
合 計	430

〈成果〉

今年度の相談対応件数は430件でした。ボランティア情報や団体情報についての問い合わせが多く、次いで、団体運営や助成金に関する内容の相談となりました。コロナ禍が収束するにつれ団体活動が活発化し、しだいに事業運営のための資金調達や助成金確保に関する相談が増加しています。また3月には「あすみん相談月間」として相談キャンペーンを実施したことで、あすみんでできる相談内容やNPOに関する相談窓口があるということ、広く周知できました。

C	1-2	市民活動相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	--------	----------------

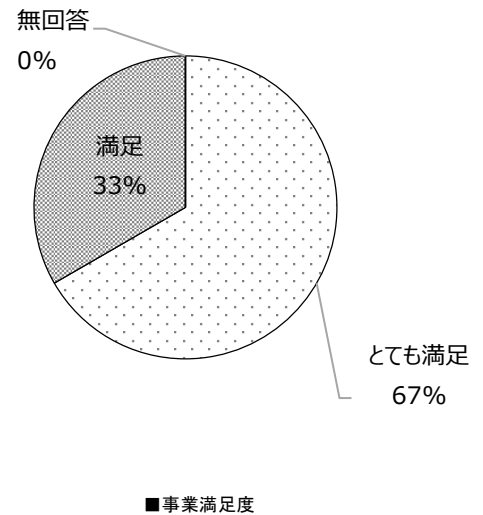
〈目的〉

NP0 法人化や多様な主体との共働による地域課題の解決、助成金等の申請、広報・情報発信、人材発掘・育成等に関して、専門的な知識が必要な団体に向けて相談対応を行い、活動を支援する。開催日を決め定期的に実施する他、要望に応じて随時対応する。融資などの資金に関する相談にも随時対応する。

〈実施状況〉

●相談の概要

- ・対象：NP0・ボランティア団体
- ・場所：会議室
- ・設定枠：36 枠（月 1 回×3 枠）
- ・相談件数：23 件（内オンライン件数：9 件）
- ・相談者数：29 名
- ・アンケート回収：12 票
- ・満足度：とても満足、満足 12 票（100%）（目標満足度 60%）



●詳細

- ・実施日：毎月第 3 水曜 18 時～20 時 50 分 他（22 件）
- ・相談員：あすみん職員

●資金調達相談

- ・相談件数：1 件（内オンライン件数：0 件）
- ・参加者数：1 人

〈成果〉

前年度に引き続き、あすみん職員、日本政策金融公庫上野氏が相談員の役割を担いました。またオンラインでの対応も引き続き行いましたが、今年度は申込者の約 4 割がオンライン対応を利用し、前年度よりオンラインでの相談が増えました。相談者の満足度は「とても満足」「満足」合わせて 100%となっており、あすみん職員の対応も満足度の高いものとなっています。3 月には「相談月間」と題したキャンペーンを実施し、月に 1 回の定期での相談とは別日でも相談対応を行い、相談利用の促進に繋げることができました。

C	1-3	会計・税務個別相談	1:市民公益活動に関する相談
---	-----	-----------	----------------

〈目的〉

専門的な知識の中でも、とくにNPOの会計・税務に関する相談対応を行い、団体の活動基盤の整備や自立的・安定的な運営に役立てる。

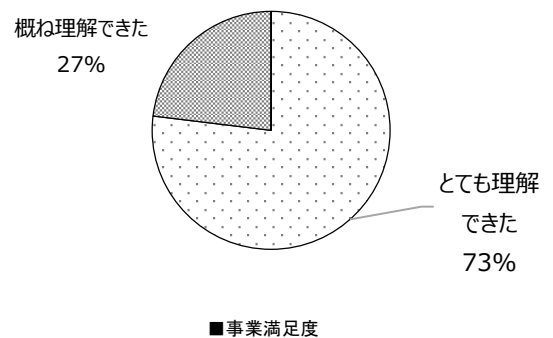
〈実施状況〉

●相談の概要

- ・対象：NPO・ボランティア団体
- ・場所：会議室
- ・相談件数：15件（目標件数：22件）（内オンライン3件）
- ・参加者数：21名
- ・アンケート回収：15票
- ・満足度：とても理解できた、概ね理解できた 15票（100%）

●詳細

- ・対応内容：助成金や謝金の会計処理、収益・非収益事業について、法人税について ほか
- ・実施日：毎月第1金曜日 3時10分～13時30分
- ・相談員：九州北部税理士会
- ・福岡市と共同開催



〈成果〉

NPO 会計の基礎的な知識から、帳簿の付け方や決算書の作成方法など実践的な分野まで、利用者の悩みや相談分野に応じた内容について、NPO の会計に詳しい税理士の専門家が個別相談に応じました。利用された方からは、「今までどこに相談して良いか分からず、悩んでいた」「相談したことにより、安心して業務が進められそう」「指導のおかげで会計処理がしやすくなった。」などの声をいただきました。NPO の会計は普通の会計とは異なり専門的な知識が必要となる分野です。このように NPO 会計について身近に相談できるような窓口があることは、たとえ利用者数が少なくても、団体運営をされる方にとって必要不可欠の事業だと考えます。

C	2-1	NPO 入門講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	----------	-----------------------

〈目的〉

NPO に関心のある市民や団体を対象に、NPO に関する基礎知識や、求められる社会背景などについて理解してもらう。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：NPO の基礎を学びたい団体や市民
- ・ 各回定員：20 名
- ・ 場所：セミナールーム
- ・ 参加者数(全 6 回合計)：83 名 (うちオンライン 33 名)
(目標参加者数：60 名)
- ・ アンケート回収：68 票
- ・ 満足度：とても理解できた、概ね理解できた 63 票 (92%)
- ・ 実施回数：6 回

5/10 (火) 19 時～21 時

(参加者 19 名※うちオンライン 5 名) (ハイブリッド開催)

7/16 (土) 14 時半～16 時半

(参加者 10 名※うちオンライン 3 名) (ハイブリッド開催)

9/20 (火) 19 時～21 時

(参加者 16 名※うちオンライン 9 名) (ハイブリッド開催)

11/19 (土) 14 時～16 時

(参加者 13 名※うちオンライン 2 名) (ハイブリッド開催)

1/17 (火) 19 時～21 時

(参加者 16 名※うちオンライン 7 名) (ハイブリッド開催)

3/18 (土) 14 時～16 時

(参加者 9 名※うちオンライン 7 名) (ハイブリッド開催)

- ・ 講師：あすみん職員 (中村、永尾)

・ 目次

1. あすみんとは
2. NPO について
3. 広義の「NPO」
4. 狭義の「NPO」
5. 最狭義の「NPO」
6. 課題解決に取り組む NPO
7. お知らせ

〈成果〉

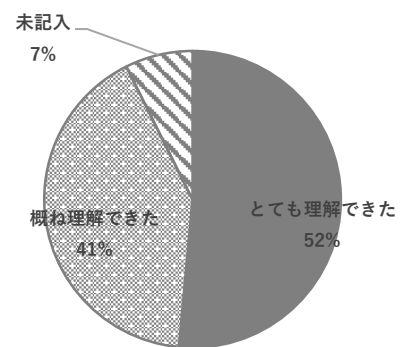
コロナ禍での状況も変化し、安全を確保しながらも社会活動に取り組む方が増えています。参加者は昨年度に比べおよそ 2 倍に、オンラインの参加者数は 3 倍になりました。オンラインにおいては、県外や学生、子育て世代の参加者などが多い傾向にありました。満足度は 90%以上に達し「分かりやすかった」という感想が多数ありました。その他にも「講座の内容を仲間に伝えたい」「もっと勉強したい」などといった感想があり、次のステップとしてのきっかけを提供できました。また、今年度は新しくスタッフが講座の講師を務める機会もあり、人材育成にもつながっています。



■ NPO 入門講座のようす



■ NPO 入門講座のチラシ



■ 事業満足度

C	2-2	ボランティア講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	----------	-----------------------

〈目的〉

ボランティア活動に関心をもつ市民や団体を対象に、ボランティアの基礎的な知識はもちろん、ボランティア活動の意義やそのはじめ方、受け入れ団体側の心構えなどをつたえる。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：ボランティアについて知りたい人、ボランティアの受け入れを考えている団体
- ・ 各回定員：20名
- ・ 場所：セミナールーム
- ・ 参加者数(全6回合計)：70名(うちオンライン18名)
(目標参加者数：60名)
- ・ アンケート回収：56票
- ・ 満足度：とても理解できた、概ね理解できた 50票(89%)
- ・ 実施回数：6回(ハイブリッド開催)

4/19(火) 19時～20時半

(参加者7名※うちオンライン0名)

6/14(火) 19時～20時半

(参加者22名※うちオンライン6名)

8/20(土) 15時～17時

(参加者18名※うちオンライン3名)

10/11(火) 19時～21時

(参加者9名※うちオンライン4名)

12/17(土) 14時～16時

(参加者6名※うちオンライン3名)

2/14(火) 19時～21時

(参加者8名※うちオンライン2名)

- ・ 出前ボランティア講座実施回数：2回

5/9(月) 福岡看護大学(参加者90名)

6/29(水) おおぞら高等学院

- ・ 講師：あすみん職員(中村、永尾)

・ 目次

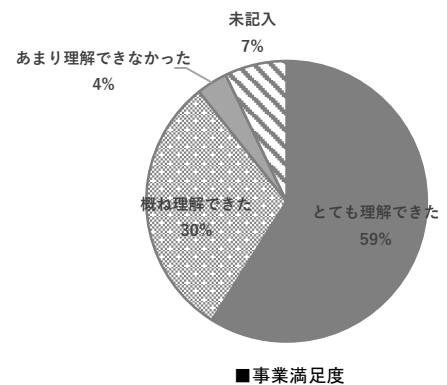
1. あすみんとは
2. NPO・ボランティアとは?
3. ボランティアを始めるには?
4. ボランティアコーディネーションとは
5. まとめ



■ ボランティア講座のようす



■ ボランティア講座のチラシ



〈成果〉

目標参加者数を上回り、昨年度の2倍に及ぶ参加者を獲得しました。参加者の層は10代から60代と幅広く、講座終了後にハジメのイッポのコーナーに興味をもたれたり、申込みされる方々も見受けられました。アンケートには「自分の好きなことから入っていくことが長続きの秘訣かなと思いました」「趣味の延長のような感覚で気軽にボランティアに参加したいと思いましたが」などの声があり、ボランティアを気軽に捉えてほしいという講座の狙いが十分に参加者へ伝わっていることが読み取れます。

C	2-3	NPO 基盤強化講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	------------	-----------------------

〈目的〉

組織の運営に悩んでいる団体、新規事業にチャレンジしたい団体などを対象に、組織に必要なマネジメント力の強化を目的とした様々な知識やスキルを提供する。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：組織の運営に悩んでいる団体、新規事業にチャレンジしたい団体
- ・ 実施回数：6回（ハイブリッド開催）
- ・ 定員：各30名
- ・ 参加者数：195名（うちオンライン152名）（目標参加者数：108名）
- ・ アンケート回収：118票
- ・ 理解度：とても理解できた、概ね理解できた 111票（94%）



■NPO マネジメント講座のようす

● 詳細

【第1回】オリエンテーション

- ・ 実施日：1/18（水）19時～21時（参加者名32名※うちオンライン25名）
- ・ 講師：NPO 法人佐賀県CSO推進機構 秋山 翔太郎 氏

【第2回】労務・危機管理

- ・ 実施日：1/24（火）19時～21時（参加者37名※うちオンライン27名）
- ・ 講師：株式会社ミカサ シニアマネージャー 濱口 宏一郎 氏

【第3回】会計税務

- ・ 実施日：2/3（金）19時～21時（参加者26名※うちオンライン20名）
- ・ 講師：NPO 会計税務支援福岡 副代表 白石 京子 氏

【第4回】クラウドファンディング

- ・ 実施日：2/8（水）19時～21時（参加者43名※うちオンライン36名）
- ・ 講師：READY FOR 株式会社 徳永 健人 氏

【第5回】事業評価

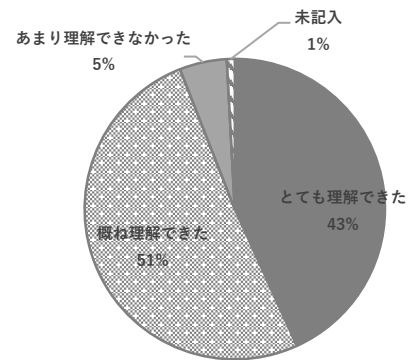
- ・ 実施日：2/13（月）19時～21時（参加者27名※うちオンライン23名）
- ・ 講師：株式会社日本政策公庫 上野 淳亮 氏

【第6回】コミュニケーション

- ・ 実施日：2/21（火）19時～21時（参加者30名※うちオンライン21名）
- ・ 講師：認定NPO 法人改革プロジェクト代表理事 立花 祐平 氏



■講座チラシ



■講座理解度

〈成果〉

コロナ禍の状況も考慮してハイブリッド開催での講座となりました。事業成果としては、昨年度と同等の参加者数、満足度という結果になりました。新規事業の確立や事業規模の拡大を考えている NPO・ボランティア団体を対象に、様々な市民活動・社会課題に取り組む専門家が登壇し、その分野に精通した革新的な手法やアイデアをレクチャーして頂きました。講師については秋山氏、濱口氏、白石氏、徳永氏については昨年度に引き続き依頼し、上野氏、立花氏に新たに依頼をしました。ハイブリッド開催としたことで、福岡市外、県外からも多くの方が参加してくださいました。特に広報の際は、全国のサポートセンターにも講座のお知らせをしたため、オンラインを活用した山口や奈良からの参加者を獲得できました。

C	2-4	NPO 広報講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	----------	-----------------------

〈目的〉

NPO・ボランティア団体に向けて「SNSの基礎知識」や「メディア活用の基礎知識」「チラシデザイン」などについてレクチャーし、団体の広報力の向上を図る。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：広報の基礎を学びたい NPO 法人・任意団体など
- ・ 実施回数：2 回
- ・ 定員：各回 30 名
- ・ 場所：あすみんセミナールーム
- ・ 参加者数：46 名



■ 第1回広報講座の様子

○ 第1回 9/13（火）19時00分～21時00分

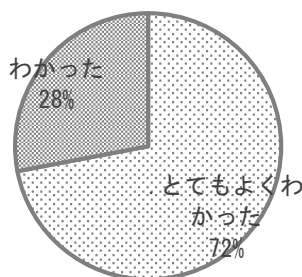
- ・ 講師：あすみん職員 中村
- ・ 内容：キャッチコピーのワークショップを中心に、言葉で伝える広報のレクチャーを行いました。
- ・ 参加者数：25 名
- ・ アンケート回収：25 票
- ・ 理解度：とてもよくわかった、わかった 25 票（100%）



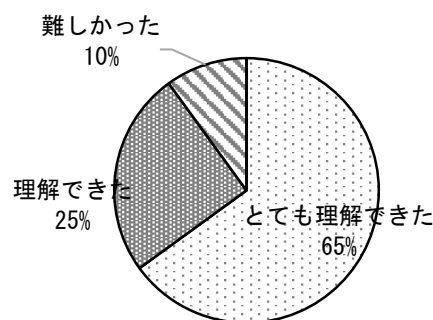
■ 第2回広報講座の様子

○ 第2回 3/17（金）19時00分～21時00分

- ・ 講師：NPO 法人九州コミュニティ研究所 池田祐介氏
- ・ 内容：デザインのコツを伝え、デザインの設計図の作成を行いました。
- ・ 参加者数：21 名
- ・ アンケート回収：20 票
- ・ 理解度：とても理解できた、理解できた 18 票（90%）



■ 第1回広報講座 理解度



■ 第2回広報講座 理解度

〈成果〉

今年度の広報講座は、9月と3月の2回にわけて講座を行いました。9月に実施した講座では、広報の基礎的なポイントやテクニックを伝える内容でした。キャッチコピーを作るワークショップを行うことで、より参加者の理解と広報力向上に繋がりました。3月実施の講座では、広報から一歩踏み込んで、デザインのコツや、実践に役立つ内容となっており、満足度の高い講座となりました。

C	2-5	NPO 法人設立説明会	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	-------------	-----------------------

〈目的〉

NPO 法人の設立を考えている団体や市民を対象に、NPO 法人の役割や法人設立への流れを理解してもらうことを目的とする。※市民局市民公益推進課認証係との共同開催

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：NPO 法人設立を考えている団体や市民
- ・ 定員：20 名 ・ 場所：セミナールーム
- ・ 参加者数：42 名（うちオンライン 17 名）（目標参加者数：60 名）
- ・ アンケート回収：36 票
- ・ 理解度：とても理解できた、概ね理解できた 35 票（97%）
- ・ 実施回数：9 回

- 4/12（火）14 時 30 分～16 時（来館 5 名、オンライン 1 名）
- 5/10（火）14 時 30 分～16 時（来館 1 名、オンライン 2 名）
- 6/8（火）14 時 30 分～16 時（来館 4 名、オンライン 3 名）
- 7/12（火）14 時 30 分～16 時（来館 2 名、オンライン 1 名）
- 8/9（火）14 時 30 分～16 時（来館 4 名、オンライン 1 名）
- 9/13（火）14 時 30 分～16 時（来館 5 名、オンライン 1 名）
- 10/11（火）14 時 30 分～16 時（申込無しの為中止）
- 11/8（火）14 時 30 分～16 時（申込無しの為中止）
- 12/14（火）14 時 30 分～16 時（申込無しの為中止）
- 1/11（火）14 時 30 分～16 時（来館 0 名、オンライン 5 名）
- 2/14（火）14 時 30 分～16 時（来館 3 名、オンライン 3 名）
- 3/14（火）14 時 30 分～16 時（来館 1 名、オンライン 0 名）

・ 講師：あすみん職員（永尾）

市民局市民公益活動推進課（中村氏、喜多氏、尾崎氏、原田氏、和田氏）

・ 目次

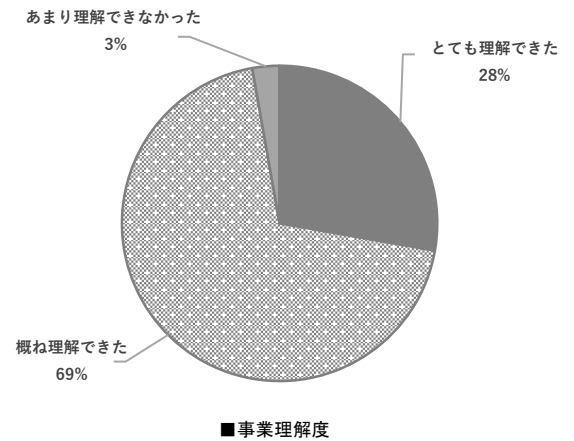
1. あすみんとは
2. 特定非営利活動法人（NPO 法人）のあらまし
3. NPO 法人格を取得するメリットと義務
4. NPO 法人の特徴
5. NPO 法人の設立までの流れ
6. 具体的な設立手続き
7. まとめ・質疑応答

〈成果〉

あすみんスタッフは前半部分の「NPO とは何か」といった NPO に関する基礎的な内容や他の法人格についての解説を担当しました。昨年度に引き続きハイブリッドによる開催を実施し、オンラインからも一定数の参加がありました。リアルもオンラインも相互コミュニケーションがスムーズに行え、満足のいく質疑応答の時間になっていたと思います。また、あすみんと認証係が協力して、対応にあたれたことも満足度の向上につながっていると考えます。



■ NPO 法人設立説明会の様子



C	2-6	NPO 向けのオンライン使い方講座	2:市民公益活動に関する研修及び講座の実施
---	-----	-------------------	-----------------------

〈目的〉

15 分ほどのオンライン実施体験を行い、参加者の、オンラインに対する苦手意識や、失敗しないコツなどを伝えることを目的とする。また、あすみんで貸し出しているオンラインに関する機材の周知を行い、利用促進につなげる。

〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 対象：オンラインについて学びたい、苦手意識を持っている団体
- ・ 定員：なし ・ 場所：セミナールーム
- ・ 参加者数：4 名 ・ 相談 2 名

・ 実施回数：11 回

5/10（火）18 時 30 分～18 時 45 分（参加者 0 人）

6/14（火）18 時 30 分～18 時 45 分（参加者 0 人）

7/16（土）14 時 00 分～14 時 15 分（相談 1 人）

8/20（土）14 時 30 分～14 時 45 分（参加者 1 名、相談 1 人）

10/11（火）18 時 30 分～18 時 45 分（参加者 0 人）

11/16（水）10 時 00 分～11 時 00 分（参加者 1 人）

11/20（日）13 時 30 分～13 時 45 分（参加者 0 人）

12/17（土）13 時 30 分～13 時 45 分（参加者 0 人）

1/17（火）18 時 30 分～18 時 45 分（参加者 2 人）

2/14（火）18 時 30 分～18 時 45 分（参加者 0 人）

2/14（火）13 時 30 分～13 時 45 分（参加者 0 人）

〈成果〉

今年度が初となる事業でした。年度を通じて参加者は少なめでしたが、第 1 回基盤強化講座が始まる前に受講された方が、その後の講座にオンラインで参加されるなどの成果を得られました。また、自団体でオンラインイベントをするためにあすみんでのオンライン講座の方法を聞きたいという要望や、LINE からオンラインツールに慣れていきたいというご意見などオンラインに関する様々な問い合わせがあり、設定した日時以外で相談に来られた団体もいました。

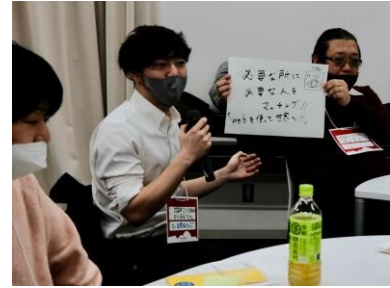
C	3-1 あすみん交流会	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-------------	-------------------

〈目的〉

市民公益活動を行なう団体・個人や行政、企業などを対象に、ネットワークづくりや「あすみん」との関係構築を目的とする。

● 交流会の内容

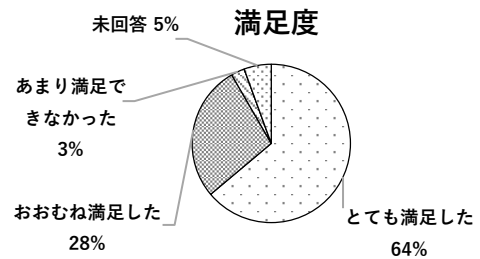
- ・対象：NPO・ボランティア活動に関心のある方
- ・実施回数：2回
- ・参加者数：45名 ・アンケート回収：36票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 33票（91%）



■交流会の様子

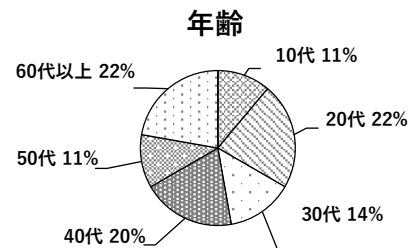
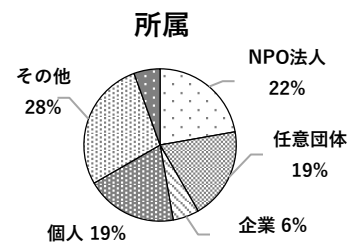
【第1回】

- ・実施日：2022年7月22日（金）19時00分～21時00分
- ・定員：30名
- ・参加者数：30名
- ・アンケート回収：24票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 22票（92%）
- ・プログラム
 1. 「あすみん」について（施設紹介）
 2. テーブルで「自己紹介」
 3. 「できる」がにつながるワークショップ
 4. フリー交流タイム
 5. 動画撮影



【第2回】

- ・実施日：2023年2月10日（金）19時00分～21時00分
- ・定員：30名
- ・参加者数：15名
- ・アンケート回収：12票
- ・満足度：とても満足した、概ね満足した 11票（92%）
- ・プログラム
 1. 「あすみん」について（施設紹介）
 2. 自己紹介（アイスブレイク）
 3. 「できる」がにつながるワークショップ
 4. フリー交流タイム



〈成果〉

初対面や話が苦手・得意、NPO の経験が有る・無しなどの異なる条件がある中で、様々な立場の人たちが同じ条件でコミュニケーションが図れる機会の提供に重点をおいた企画とし、参加しやすいプログラムを用意しました。アイスブレイクでは、初対面でも自己紹介ができる時間の確保と話のきっかけに繋がる共通のテーマや名札の記載内容の工夫、ワークショップでは、ペアやチームを設けて接点と連携の機会を作りました。また、あすみんの別事業による関わりをきっかけに、企業や若年層へのアプローチも行いました。幅広い年齢層や様々な所属の参加があり、「貴重な体験ができた」「色々な団体と関わることができた」など、垣根を超え新しい連携のきっかけに繋がりました。

C	3-2 新規登録団体交流会	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	---------------	-------------------

〈目的〉

新規登録団体を対象に、団体の不安を解消し、スタートアップを支援する。「あすみん」の利用や事業紹介などの情報提供、参加団体相互の情報交換を行い、ネットワークづくりを目的とする。

〈実施状況〉

● 交流会の内容

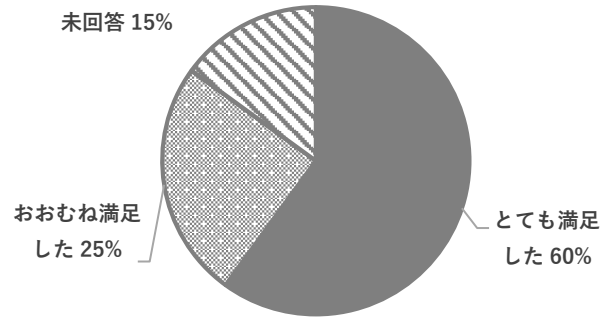
- ・ 対象：あすみんへ新規に団体登録を行った団体
- ・ 実施回数：2回
- ・ 参加者数：24名（17団体） ・ アンケート回収：20票
- ・ 満足度：とても満足した、概ね満足した 17票（85%）

【第1回】

- ・ 実施日：2022年6月10日（火）19時00分～20時30分
- ・ 対象団体数：43団体（登録No.763～827）
- ・ 参加者数：9名（6団体）
- ・ アンケート回収：7票
- 満足度：とても満足した・概ね満足した 7票（100%）
- ・ プログラム
 1. あすみんの紹介（活用編・実践編）
 2. 団体活動紹介
 3. 名刺交換などフリータイム

【第2回】

- ・ 実施日：2022年11月11日（金）19時00分～20時30分
- ・ 対象団体数：71団体（登録No.763～855）
- ・ 参加者数：15名（11団体）
- ・ アンケート回収：13票
- 満足度：とても満足した・概ね満足した 10票（77%）
- ・ プログラム
 1. あすみんの紹介（活用編・実践編）
 2. アイスブレイク
 3. 団体活動紹介、〇×クイズ
 4. 相談タイム
 5. 名刺交換などフリータイム



■交流会の様子

〈成果〉

第1回は施設概要やワーキングコーナーの使い方のポイントなどについて説明し、実際に販売しているハレパネについて制作体験をしました。フリータイムでは、お互いに運営の課題や団体活動のPRを通して、連携のきっかけや、分野を越えた活動を知る機会になりました。第2回では、施設概要やワーキングコーナーの使い方のポイントなどについて説明した後、自己紹介も兼ねた団体の〇×問題を考えて頂きました。相談タイムではお互いに運営の課題や広報の悩みなどを共有することで、新しい視点で問題を考える機会になりました。参加者の中には、交流会前から活動に興味を持ってもらえるのか不安を持たれている人もいましたが、交流を通して自分以外の人々の頑張りや取り組んでいる姿を知ることによって、視野が広がり今後の活動を前向きに進むきっかけになったようです。あすみんの活用や今後の交流会・講座等への参加も前向きに考えていただき、施設利用の促進にも繋げる事ができました。

C	3-3	市民活動・ボランティアフォーラム	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	------------------	-------------------

〈目的〉

NPO・ボランティア、学生等の市民公益活動、企業の社会貢献活動の取り組みなどをより多くの市民に知ってもらい、社会課題への解決へ向けた関係づくりをすすめることを目的とする。

〈実施状況〉

●フォーラムの概要

- ・対象：NPO・ボランティア団体はじめ、行政や企業、大学生等
- ・実施回数：1回（2日間）
- ・参加者数：808名（目標参加者数：1000名）
- ・アンケート回収33票
- ・満足度：「とてもよかった」、「よかった」有効回答27（82%）

昨年度からアンケートの様式を変え、各コンテンツでのアンケートに重複はまとめ、来館者がアンケートを2~3枚書くといった負担を減らした。結果として全体アンケートの回収率は下がった。GAF全てのコンテンツのアンケート回収総計は82票であった。

●10月1日（土）

- ・10：00-12：30 「令和3年度福岡市NPO活動推進補助金事業」事業報告会（参加者数26名）
- ・11：00-16：00 あすみんマルシェ（1日目）参加者数206名
- ・12：00-15：00 あすみんステージ（1日目）（参加者数223名〔内オンライン93名〕）
- ・15：00-17：30 学生ボランティアミーティング（参加者数16名）

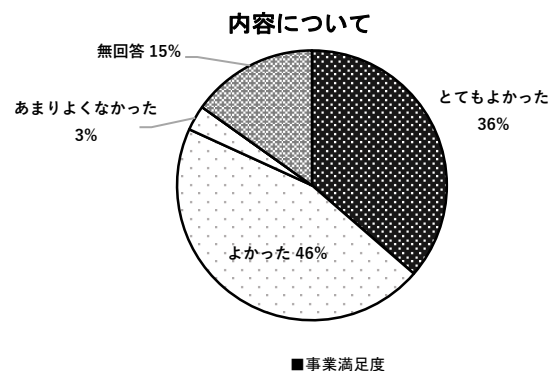
●10月2日（日）

- ・11：00-12：30 福岡市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』（参加者数31名〔内オンライン6名〕）
- ・11：00-15：00 あすみんマルシェ（2日目）（参加者数257名）
- ・12：00-14：30 あすみんステージ（2日目）（参加者数240名〔内Facebook動画配信視聴者149名〕）
- ・15：00-17：00 あすみん講演会（ゲスト講師：川北秀人氏 参加者数99名〔内オンライン26名〕）

（両日）

【館内展示】

- ・見学者数246名
- ・内容
 楽しく学ぼう！市民活動クイズ
 みんなで作る！市民活動年表
 先輩NPO、「あのとき」と「これから」



〈成果〉

今年度は、コロナ以降の新しい市民活動の一步が生まれることに期待を込めて「Next action with citizens」をテーマに、2日間のイベントを開催しました。「学生ボランティアミーティング」「あすみんステージ」などの交流連携事業も同日開催し、複合的なイベントとして構成しました。基調講演では、IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] から代表の川北秀人氏を講師に迎え、「これまでと、これからを考える」と題しお話しいただきました。アンケートには「これからの団体活動を考えるうえでヒントをたくさんいただきました」「福岡の未来を勉強させていただき、希望と目標が持てます」等の感想があり、参加者にとって次のステップを踏み出す機会を提供できました。講演内容はオンライン配信し、全国から参加できるハイブリッド開催として、26名の参加がありました。

福岡市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』は、福岡で市民活動に取り組んでこられた方々に集まっていたいただき、この20年間のNPO活動を振り返っていただきました。あすみんでどんな想いで活動をスタートしたのか、どんな苦労があったのかなど、普段なかなか聞くことのできない話に会場は盛り上がりました。トークの記録をグラフィックレコードにまとめたものは、情報コーナーに掲示し終了後も多くの関心を集めていました。また、Facebook配信の数字も伸びており、動画は656人へリーチし、再生回数336回となっております。(3/31現在)

また、初めてあすみんへ来館した方々へ市民活動へ触れる間口を増やそうと、今年度新たに「あすみんマルシェ」というコンテンツも設けました。来館者へ参加団体の活動に興味をもってもらえる場となったことはもちろん、出展者同士での交流も生まれました。たまたま立ち寄ったという方にも楽しんでいただくことができました。第1回開催ということで、改善点もありますが、あすみんステージのように団体発表の場となるよう育てていきます。

今年度もチラシを作らずWEB広報での集客を行いました。20周年の祝いにぜひご来館くださいという想いから、主にダイレクトメールや電話での声掛けによる広報も成果につながっていると考えます。たくさんの方のNPO活動者のみなさまにご参加いただき、改めて市民活動の盛り上がりは、市民とつくっていくことが大事だということを確認しました。



■あすみん講演会



■みんなで作る！市民活動年表



■あすみんマルシェの様子



■あすみんステージWSの様子



■学生ボランティアミーティングの様子



■あすみんステージの様子



■GAF 広報バナー



■あすみん講演会広報バナー



■福岡市民公益活動サミット『明日の市民の同窓会』

C	3-4	社会貢献企業の見える化	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------	-------------------

<目的>

企業が求めている社会貢献に向けたニーズや課題を把握し、CSR・CSV、SDGsなどの事例を館内掲示やウェブなどで紹介し、市民公益活動の重要な取り組みとして周知を図る。

<実施状況>

- ボランティア活動の参加（5社、6回、計128名）
 - 【株式会社 J-GATE】8名
 - ・実施日：7/10（日）（大博通り ECO クリーンアップ大作戦）
 - 【グランドハイアット福岡】7名
 - ・実施日：8/20（土）（大濠公園の中の花のボランティア）
 - 【ICT コンストラクション株式会社】24名
 - ・実施日：9/17（土）、12/17（土）（大濠公園の中の花のボランティア）
 - 【一般社団法人 MDRT 日本会九州ブロック】50名
 - ・実施日：10/5（水）（生の松原環境保全プロジェクト）
 - 【プルデンシャル生命株式会社】39名
 - ・実施日：10/29（土）（CGM ボランティア福岡）

- カレンダー・家計簿等の寄贈（9社、11件）
 - 【株式会社 大塚商会】
 - ・配布期間：11/26（金）～ 2/28（月）未開封や未使用の事務用品
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）雑誌「家の光」
 - 【株式会社 NIPPON】
 - ・配布期間：10/16（日）～10/31（月）童話集「童話の花束 52」
 - ・配布期間：2/1（水）～ 2/28（火）童話集「童話の花束 53」
 - 【東京海上日動火災保険株式会社 九州エリアサービス部】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【日鉄エンジニアリング株式会社 九州支社】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【株式会社大塚商会 プロモーション LA 事業部】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【株式会社大塚商会 広島支店】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【富士機材株式会社 九州支店】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【東宝ホーム株式会社 福岡支店】カレンダー
 - ・配布期間：1/4（火）～ 1/31（火）
 - 【三井住友海上あいおい生命保険株式会社】カレンダー
 - ・配布期間：3/1（水）



■ボランティア講座



■カレンダー



■家計簿付き冊子

<成果>

今年度は9社の企業からカレンダー・手帳・家計簿付き冊子等の寄贈について相談がありました。寄贈品はあすみんで展示し無料配布を行うとともに、掲示物を通して、企業のCSR活動として紹介しました。無料配布しているカレンダーについては、毎年楽しみにしている利用者も多く、寄贈したい側からも多くの問い合わせがありました。年間を通して、企業のCSR・CSVなど多様な社会貢献活動について、利用者に周知することが出来ました。

C	3-5	市民公益活動に関する取組の開催誘致	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------------	-------------------

〈目的〉

市民公益活動の促進や支援に関するイベントや会合を誘致し、広域的な利用促進とセンターの周知を図る。

〈実施状況〉

●イベント開催誘致の主な実施内容

- ・対象：登録団体及び公益活動をおこなう団体
- ・実施回数：1回
- ・参加団体数：12団体
- ・参加者数：14名

【令和5年度『子どもゆめ基金』募集説明会】

- ・実施日：9/3（土）
- ・内容：説明会会場として
- ・連携先：独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〈成果〉

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催ができていなかった「令和5年度『子どもゆめ基金』募集にかかる説明会」を感染対策を十分に図った会場構成により、実施することができました。当日は初めて説明会に参加したり、あすみに初めて来館する方も多く、事業や施設の認知を高める機会となりました。

C	3-6	他施設・他組織との連携	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-------------	-------------------

〈目的〉

社会課題の解決や市民公益活動の推進に取り組んでいる他施設・他組織と連携し、市民公益活動の推進へと繋げる。

〈実施状況〉

- ・対象：市民公益活動を支援する施設・組織
- ・実施回数：21回

●特定非営利活動法人緑のキャラバン隊との連携

- ・実施日：4/18(月)～4/28(木)
- ・場所：あすみん
- ・内容：市のイベントで活動発表に使用した後の花苗展示・配布

●NPO 法人設立認証書交付式

- ・実施日：6/9(木)、7/29(金)
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：新しくNPO法人を設立した方へのあすみんの施設紹介
- ・連携先：福岡市市民局

●福岡県公設センター連絡会

- ・実施日：6/7(火)、11/15(火)
- ・場所：福岡県NPO・ボランティアセンター
- ・内容：「NPOと市民活動」
「NPOの声を聞き・違いを知る」
- ・連携先：福岡県NPO・ボランティアセンター

●オンライン座談会

- ・実施日：6/28(火)
- ・場所：オンライン開催
- ・内容：インターンシップ参加企業同士で情報交換、プログラムのブラッシュアップ
- ・連携先：九州産業大学、株式会社アソウ・ヒューマニーセンター

●博多あん・あんリーダー会との連携

- ・場所：オンライン開催
- ・実施日：8/1(月)～8/31(水)
- ・内容：冊子「避難所のデザイン」と、冊子掲載のピクトグラム34点の展示

●dLab

- ・実施日：8/20(土)、9/25(日)
- ・場所：あすみん
- ・内容：dLab参加者に向けて、施設紹介
- ・連携先：福岡市市民局

●視覚障がい者と支援者の会との連携

- ・実施日：8/21(日)～8/31(水)
- ・場所：あすみん
- ・内容：自販機の点字と点字カードを作成・設置

●長崎市市民活動センター「ランタナ」職員との交流会

- ・実施日：8/22(月)
- ・場所：あすみん
- ・内容：あすみんで受け入れたインターンシップ生と、長崎市市民活動センター「ランタナ」職員との交流会

●FUKUOKA CAREER EXPO 2022

- ・実施日：9/10(土) ・場所：あすみん
- ・内容：「FUKUOKA CAREER EXPO 2022」の参加者に向け、あすみんの施設説明、NPOの基礎などの説明
- ・連携先：福岡未来創造プラットフォーム

●まほうのシール福岡支部との連携

- ・実施日：10/17(月)～10/31(月) ・場所：あすみん
- ・内容：まほうのシール福岡支部の活動内容が記載されたパンフレットとまほうのシールの設置・配布

●公民館職員研修

- ・実施日：10/18(火) ・場所：あすみん
- ・内容：中央区の公民館職員の人権研修に合わせて、参加していた館長や主事に向けて施設紹介

●春日高校の調査研究

- ・実施日：10/24(月) ・場所：あすみん
- ・内容：NPOで貧困の国について支援活動している団体・活動について相談があり、資料の準備・提供を行った

●あいくるハロウィーンイベント

- ・実施日：10/30(日) ・場所：あいくる・あすみん
- ・内容：あいくるのハロウィーンイベントに参加する子たちにお菓子の配布

●長崎大学生の訪問

- ・実施日：11/6(日)、12/18(日) ・場所：あすみん
- ・内容：卒業論文で中間支援施設や市民活動センターの調査をしている大学生へ、あすみんの事業説明、施設紹介

●アラカンフェスタ

- ・実施日：2/23(木) ・場所：福岡国際会議場2階
- ・内容：あすみんの施設やボランティアプログラムの紹介
- ・連携先：アラカンフェスタ実行委員会(福岡市)

●ジュニアリーダー研修

- ・実施日：2/26(日) ・場所：あすみん
- ・内容：あすみんの施設やボランティアプログラムの紹介
- ・連携先：福岡市子ども未来局こども健全育成課

●高齢者のためのしごと・ボランティア合同説明会

- ・実施日：2/27(月) ・場所：福岡国際会議場2階
- ・内容：あすみんの施設やボランティアプログラムの紹介
- ・連携先：福岡県生涯現役チャレンジセンター

●地域共創会議

- ・実施日：3/27(月) ・場所：あすみん
- ・内容：あすみんの施設やボランティアプログラムの紹介
- ・連携先：市民局

〈成果〉

今年度も多くの連携事業を行いました。特に特徴的だったのは、dlabとの連携です。プログラム参加者にあすみんの施設を利用していただけるよう利用者カードの作成と、Zoomを通じた施設の案内を行いました。また登録団体や近隣の学校との連携も数多く行い、あすみんの施設サービスの向上や利用促進につなげました。

C	3-7 先輩 NPO に聞いてみよう	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	--------------------	-------------------

〈目的〉

経験が豊富でさまざまなスキルをもつNPOを講師（先輩NPO）として招聘し、交流を通してノウハウや活動の実情を参加者と共有する。

〈実施状況〉

●内容

- ・実施回数：4回 ・定員：各20名 ・場所：ミーティングコーナー
- ・参加者数：81名（目標参加者数：各回12名）
- ・アンケート回収：29票
- ・満足度：とても満足できた、概ね満足できた 29票（100%）



■イベントの様子

【第1回】

- ・実施日：10/14（金）19時～21時（来館10名、オンライン15名）
- ・ゲスト：岩本史緒氏（NPOはるよし 理事）

【第2回】

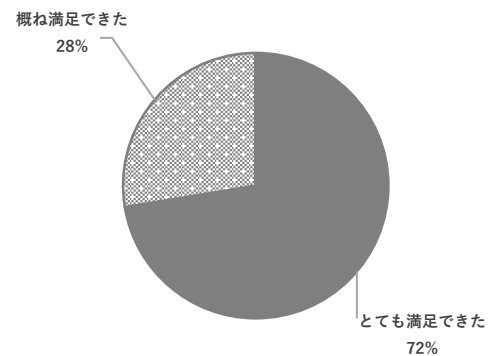
- ・実施日：11/24（木）19時～21時（来館10名、オンライン9名）
- ・ゲスト：長阿彌幹生氏（一般社団法人福岡デンマーク協会 理事長）

【第3回】

- ・実施日：1/30（木）19時～21時（来館11名、オンライン10名）
- ・ゲスト：古賀彩子氏（一般社団法人PLAY FUKUOKA 代表理事）

【第4回】

- ・実施日：3/9（木）19時～21時（来館11名、オンライン5名）
- ・ゲスト：筑前りょう太氏（NPO法人九州プロレス 代表理事）



■事業満足度

〈成果〉

学生を含めた幅広い年代の方や遠方からの方などたくさんの方にご参加いただき、参加者目標数を達成することができました。また、事業の満足度も100%を達成することができました。第1回で、NPO活動を楽しもうというメッセージを発信していただき、参加者にとって新しい視点を得られる機会となりました。一方で組織運営の難しさに触れるお話もあり、NPOの楽しさと大変さ、両方が詰まった会になりました。また、大学生の申込もあり、老若男女幅広い交流ができました。第2回目では長阿彌氏をゲストに迎え、20年にわたる活動に秘められた、他者との関わり方、関わる姿勢のお話があり、どんなNPO活動にも通ずるものでした。アンケートからは前向きな気持ちが読み解け、新しい一歩を後押しするような会となりました。第3回では「継続した団体活動が聞けてよかった、ミッションを通じた事業の進め方・歴史が知れて学びになった」といった声もあり、事業として先輩NPOの専門性と、長年活動に携わってきたノウハウが学べる場となりました。第4回では、講師のエネルギーに元気をもらったという感想のほか、ミッションをクリアするための手法の1つとしてプロレスがあるといった先輩NPOならではのお話しがうかがえました。課題としては最適なマイク・スピーカーを準備することができず、「少し聴き取りづらかった」といった声が会場から出たことです。このようなケースはまた起こりうるため、事業用の備品の購入などを検討していきます。

C	3-8	あすみんステージ	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	----------	-------------------

〈目的〉

日ごろの活動や力を入れている取り組み（ワークショップや工作を含む）などを PR・発表する場を設け、互いの活動や思いを知るきっかけとし、団体活動の推進につなげる。

〈実施状況〉

●概要

- 7月30日（土） 13時00分～16時00分 参加者数：68名（参加団体：3団体）（動画視聴：延べ341回）
- 10月1日（土） 12時00分～18時30分 参加者数：105名（参加団体：7団体）
- 10月2日（日） 12時00分～14時30分 参加者数：73名（参加団体：5団体）（動画視聴：延べ149回）
- 2月18日（土） 13時00分～16時00分 参加者数：50名（参加団体：3団体）

●あすみんステージ参加団体

実施月日	実施団体名
7月30日	福岡友の会
7月30日	福岡みすゞ会
7月30日	警固公園フラワーメイト 地域に花を咲かせよう会（特定非営利活動法人 緑のキャラバン隊）
10月1日	メープルハート
10月1日	一般社団法人熊森協会 福岡支部
10月1日	みつば工房
10月1日	ゆうがおの会
10月1日	博多あん・あんリーダー会
10月1日	Altcom 株式会社
10月1日	Familia Academy 協会
10月2日	一般社団法人 SDGs 未来ラボ
10月2日	アトリエ KAZU
10月2日	NPO 法人チャリティサンタ福岡
10月2日	心理学実践教室ここから
10月2日	認定 NPO 法人日本セラピューティック・ケア協会
2月18日	特定非営利活動法人福岡終活・相続支援センターみらいあん
2月18日	絵本コンシェルジュクローバー
2月18日	警固公園フラワーメイト（特定非営利活動法人緑のキャラバン隊）



■みつば工房（ワークショップの様子）



■特定非営利活動法人福岡終活・相続支援センターみらいあん



■あすみんステージの様子

〈成果〉

登録団体以外からの申し込みも多く、あすみんステージが徐々に周知されるようになりました。今年度は全部で4回実施しましたが、各回ともに和やかな雰囲気で行われ、終始笑顔で楽しんでいる様子でした。今年度は子どもから大人まで幅広い年齢の方々に楽しんでもらえるような内容が多く、観客が一体となって楽しめるような参加型のステージもありました。また昨年に引き続き連続出演した団体もあり、あすみんステージは市民公益活動の発表の場として機能しています。

C	3-9	全国のサポートセンターとの連携	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	-----	-----------------	-------------------

〈目的〉

市民活動の支援に取り組む全国のサポートセンターと連絡を取り合い、事業やノウハウの相互交換など、同じ使命感を持つ施設同士の連携を高める。

〈実施状況〉

●佐賀市市民活動プラザ

- ・実施日：2023年1月18日（水）
- ・実施内容：NPO 基盤強化講座第一回「オリエンテーション」の講師としてプラザ長の秋山氏招聘し、市民活動における団体運営のあり方を講義。あわせて佐賀市市民活動プラザの概要や佐賀での市民活動の状況等を紹介していただいた。

●宗像市 市民活動・NPO センター

【NPO 基盤強化講座】

- ・実施日：2023年2月21日（火）
- ・実施内容：NPO 基盤強化講座第六回「コミュニケーション」の講師として代表の立花氏を招聘し、市民活動に多くの仲間を集めるための心得について講義。あわせて市民活動・NPO センターの概要と取り組みを紹介していただいた。



■佐賀市市民活動プラザとの連携



■宗像市市民活動・NPO センターとの連携

●長崎市民活動センターランタナ

- ・実施日：2023年2月13日（月）
- ・実施内容：4月から指定管理者が変わり、管理運営体制が変わる。それに伴い、情報誌の内容も工夫しようと思っている。あすみんでは、どのように情報誌を作成しているか相談があった。

●福岡県 NPO・ボランティアセンター

- ・実施日：2023年3月29日（水）
- ・実施内容：3月24日をもって、福岡県 NPO・ボランティアセンターが閉館し、県庁1階の新施設「コラボステーション福岡」と名称・機能変更（4月3日開館）を受けて、谷口係長と中村の2名で、新施設の機能や従来からの変更点などの確認に伺いました。新施設は、これまでの NPO（特に NPO 法人）を利用対象としていた旧施設から、企業等も含めた市民公益活動を支援する、団体同士の連携をはかる施設になるとのことですが、具体的な機能については未定とのことでした。新施設では、団体が会議等で利用する場所や印刷サービスがなくなるため、利用者のあすみんへの流入が想定されます。

〈成果〉

佐賀の秋山氏、宗像の立花氏とはこれまでの他事業での関わりが多く、今後も関係性を保ちながら施設同士の連携へと発展させていきたいです。また、グッドアクティビティフェスティバルや NPO 基盤強化講座に関しては、全国に情報を発信し、オンラインからの参加もあり、大野城や福津のサポートセンターからは実際に足を運んで参加して下さった講座もありました。福岡県 NPO・ボランティアセンターが閉館、別施設になることを受けて、県内の他施設間の連携については、新たな目的意識やリーダーシップが求められる状況となっています。今後ともあらゆる施設と関わりを持ちながら、市民公益活動を盛り上げていけるよう連携を図ります。

C	3-10	公益活動団体同士の共働の推進	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	------	----------------	-------------------

〈目的〉

団体同士の想いや事情を出し合い、共働へとつなげる。

〈実施状況〉

●相談件数：27件

●紹介：55件

●実施：2件

・「博多あん・あんリーダー会」と「H&K Laboratory」が、災害時の避難所展示（ピクトグラム）について、共働で実施するため、あすみが仲介して日程調整をし、実施に向けた打ち合わせを行いました。

・「ひまわりのびっこクラブ」に「ポケットフラワー」を紹介したところ、ひまわりのびっこクラブ主催のイベント「第8回魔法使いのマルシェ」へ、フラワーロスの取り組みをしているポケットフラワーのイベント出店が決まりました。

〈成果〉

「イベント等に協力してくれる団体を探している」、「他の団体と連携して事業に取り組みたい」といった、団体同士の共働に関する相談を受け付けました。相談内容に応じて、あすみん職員が該当する団体を紹介し団体同士のマッチングの機会の創出に努めました。あすみんを仲介し団体同士でマッチングを図り、団体同士で共働イベント実施に繋がったという事例も2件ありました。

C	3-11	あすみんミュージアム	3:市民公益活動を推進する交流連携
---	------	------------	-------------------

〈目的〉

施設内の壁面を利用して、市民公益活動の中で制作された作品等の展示を行うことで、団体広報のサポートを行うと共に、施設を利用する市民に対し新たな関心や気づきを創出する。

〈実施状況〉

●概要

・実施回数：14回／来場者数：1,654人

	期間	団体名	人数
5月	5月11日(水) ～5月31日(火)	福岡友の会(登録番号0556)	156名
6月	6月1日(水)	福岡友の会(登録番号0556)	61名
	6月21日(火) ～6月30日(木)	博多あん・あんリーダー会(登録番号0017)	
7月	7月1日(金) ～7月28日(木)	博多あん・あんリーダー会(登録番号0017)	161名
8月	8月1日(月) ～8月20日(土)	テクノロジー犯罪被害ネットワーク福岡(登録番号0812)	177名
	8月21日(日) ～8月28日(日)	安心・安全防犯ボランティア福岡(登録番号0833)	
9月	9月6日(火) ～9月26日(月)	一般社団法人くらげれんごう(登録番号0823)	82名
10月	10月10日(月) ～10月31日(月)	徒然グラス	178名
11月	11月1日(火) ～11月19日(土)	Life wave サポート	95名
	11月21日(月) ～11月30日(水)	ふくおか子育てマイスターあゆみ(登録番号0091)	109名
12月	12月1日(木) ～12月27日(火)	ふくおか子育てマイスターあゆみ(登録番号0091)	226名
1月	1月18日(水) ～1月31日(月)	福岡友の会(登録番号0556)	77名
2月	2月1日(火) ～2月8日(日)	福岡友の会(登録番号0556)	54名
	2月13日(日) ～2月28日(木)	NPO法人がんのママをささえ隊ネットワーク ETERNAL BRIDGE(登録番号0596)	161名
3月	3月1日(日) ～3月5日(木)	NPO法人がんのママをささえ隊ネットワーク ETERNAL BRIDGE(登録番号0596)	117名



〈成果〉

今年度の利用者は、自団体のイベントや講演会の広報も兼ね、イベント開催時などに日程を合わせて展示をする団体さんもいました。展示を通して福岡で活躍する団体について利用者の方々に知ってもらうだけでなく、福岡の市民公益活動に関心を持ってもらい、社会課題を自分事として考える機会を創出することができました。

C	4-1 災害ボランティア・防災情報の提供	4:災害時のボランティア等への活動支援
---	----------------------	---------------------

〈目的〉

市民の被災地支援活動を支援し、災害時の対応や防災に関する情報の周知を図るために、ボランティアに関する情報の提供や防災情報の掲示を行う。

〈実施状況〉

●概要（FBにおける情報の提供件数：6件）

- ・4月14日 熊本地震
- ・9月2日【平時から考えてみよう！防災のこと】
- ・11月12日【防災の知識楽しく身に付けませんか？】
- ・2月9日【地震被害への義援金の募集について（令和5年2月トルコ地震）】
- ・2月9日【いまいちど災害ボランティアの在り方について考えてみよう】
- ・2月9日【東日本大震災から12年になりました】

【HPに特設ページ開設】

- ・令和3年8月11日からの大雨について
（災害情報を知る、ボランティアについて、寄附する、物資などを支援する）

【展示】

- ・防災食をはじめとするグッズや資料の紹介
（協力企業：ミドリ安全株式会社、アルファー食品株式会社、尾西食品株式会社、株式会社フェリシモ）

【掲示】

- ・博多あん・あんリーダー会（避難所ピクトグラム：避難所のデザイン）
- ・防災バリアフリープロジェクト（おたすけ手ぬぐい）
- ・東日本大震災の掲示
- ・福岡県西方沖地震の掲示
- ・防災グッズの紹介



■災害情報の掲示



■防災食・グッズの展示

〈成果〉

防災週間などの啓発期間を通して博多あん・あんリーダー会をはじめ、福岡にある団体の防災グッズを中心に紹介しました。また、熊本地震、東日本大震災や福岡県西方沖地震など、過去の災害からNPOの災害支援活動の事例や平常時からの防災意識の向上に繋がる情報の提供を行いました。

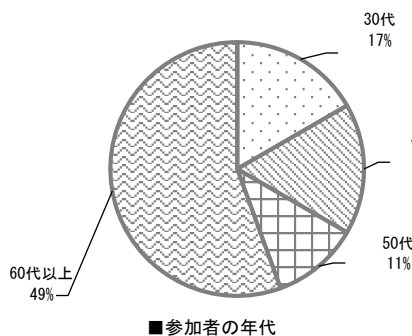
〈目的〉

災害ボランティアネットワークを構築し、災害ボランティア活動を担える人材を育てる。

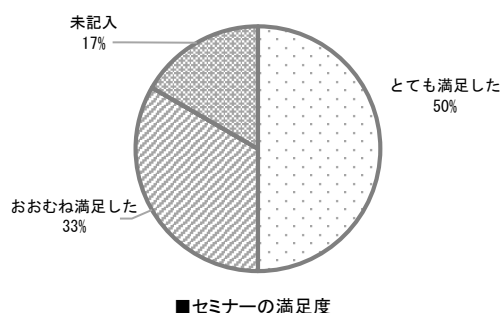
〈実施状況〉

● 講座の概要

- ・ 定員：30名 ・ 場所：セミナールーム全室
- ・ 実施回数：1回
- ・ 参加者数：18名（目標参加者数：24名）
- ・ アンケート回収：18票
- ・ 理解度：とても満足した、おおむね満足した 15票（83%、未回答3票）
- ・ 実施日：12/3（土）14時～16時
- ・ プログラム
 1. ①クイズ（防災・災害に関する〇×クイズ）
 2. グループワーク（各テーブルでチームを作り、もしも「●●な状況で災害にあつたらどう自分の身を守るか」について話し合う）
 3. NPO法人 YNF と被災地からの中継（活動報告、ボランティア募集）
 4. フリー交流タイム（名刺交換・防災食の試食等）
 その他. 防災グッズ・防災食展示



■参加者の年代



■セミナーの満足度



■ワークショップの様子

〈成果〉

昨年満足度が高かったプログラムをブラッシュアップする形で、関連団体による監修や専門的な視点からの意見を参考に内容を構成しました。最も満足度が高かったプログラムは、NPO法人 YNF による被災地からの中継でした。年々大きな災害が増加し、コロナによる活動の制限が長引いている中で、現地のリアルな声や地域の様子を知る機会となり、新鮮かつ重要な情報として学ぶことができました。また様々な企業から多くの食品・グッズを提供していただき、持続的な関係性を築くことができました。集客では、今年は若年層の参加数は減少しましたが、医療や教育の新しい分野へのアプローチを行うなど、事業自体の認知度のアップに繋がるきっかけを多く作ることができました。

〈目的〉

災害ボランティアの意義や必要性を伝えるため、災害ボランティア活動の心得や注意点を動画にまとめて紹介する。

〈実施状況〉

特定非営利活動法人福岡被災地前進支援さんにご協力いただき、動画「災害ボランティアオンライン講座」を制作しました。

この動画を

- ・ 常時 HP に動画を掲載
- ・ 3/11 FB に動画を掲載（視聴回数 200 回）
- ・ 3/24- 館内デジサイに動画を流す（視聴人数 278 人）



■動画の映像

〈成果〉

災害ボランティア・防災情報の提供とあわせ、あすみに来館された際に情報が目に入るように館内デジサイで動画を流しました。デジサイの前で立ち止まって、防災や日頃の備えについて話す利用者同士の姿も見受けられました。有事の際のみならず、日頃より利用者へ災害・防災への意識向上を図る情報の発信と、災害ボランティアの心得や必要性を伝えることを来年度も引き続き取り組んでいきます。

C	5-1	NPO・ボランティア体験プログラム	5:NPO・ボランティア体験事業
---	-----	-------------------	------------------

〈目的〉

参加者のニーズや希望に対応したボランティア体験プログラムのメニューを提供するとともに、受入団体が新しい支援者やメンバーを獲得する機会を創出する。

〈実施状況〉

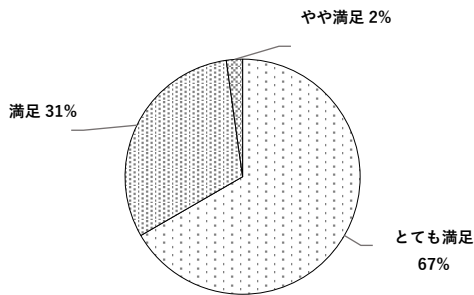
● ボランティア体験事業の内容

- ・対象：ボランティア活動に関心がある市民、活動を始めたい市民
- ・実施日：2022年4月1日（金）～2023年3月31日（金）
- ・プログラム数：47プログラム
- ・体験者数：140名（目標参加者数：100名）
- ・月別体験者数

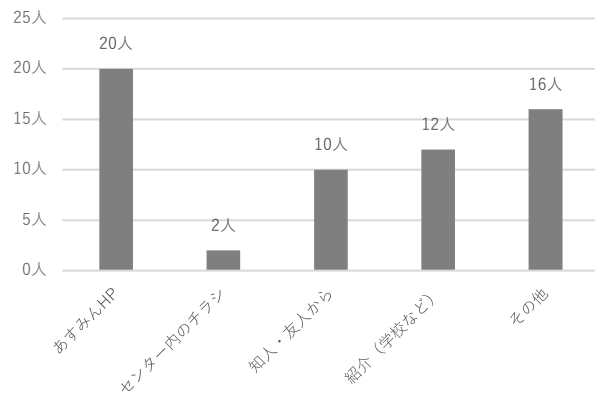


■ハジメのイッポ紹介コーナー

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者数	11名	9名	16名	20名	31名	3名	13名	5名	7名	8名	13名	4名
受入団体数	5	5	6	11	15	3	9	5	5	6	9	2



■ハジメのイッポの満足度



■ハジメのイッポを知った経緯

〈成果〉

今年度の参加者数は140名で前年度に比べて約45%増加（前年度の体験者：96名）しました。また各種講座や交流会、アラカンフェスタ等の外部事業への参加などを通して、幅広い年齢層に向けて周知することができ、結果として参加者数の増加にも繋がりました。参加者のアンケート結果から、「参加者の方々が優しく、とても居心地よくボランティア活動が出来た。」「現在の貧困の状況を知ることができ、刺激を受けた。」「別のボランティアにも参加していきたいと思った。」「今後もあずみんの紹介でボランティア活動に参加したいと思う。」などの声をいただきました。団体活動の活発化に伴い、市民公益活動への関心も高まっており、今年度はより多くの方にボランティアに触れる機会を提供することができました。

C	5-2	ボランティア体験コーディネート	5:NPO・ボランティア体験事業
---	-----	-----------------	------------------

〈目的〉

企業人がボランティア学習や体験を通して、企業としての社会貢献の意義（CSR）を理解し、社会（地域）との関わりを考えるきっかけを創出することを目的とする。

〈実施状況〉

● ボランティア体験事業の内容

- ・対象：ボランティア活動に関心がある企業の社員、学校の生徒・学生など
- ・実施プログラム数：25 プログラム
- ・参加者数：255 名（8 団体）

【株式会社 J-GATE】

- ・実施日：7/10（日）
- ・受入団体：1 団体（大博通り ECO クリーンアップ大作戦）
- ・体験者数：8 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施

【麻生公務員専門学校 福岡校】

- ・実施日：7/12（火）～2/24（金）
- ・受入団体：7 団体
（都会の公園で花のボランティア／九大病院馬出フラワーボランティア／炊き出し夜回り／ハレルヤ食堂子どもの居場所と食育を考える子ども食堂／学習支援プロジェクト「寺子屋 わくレオはうす」／里親子さんの交流支援サポーター／託児ボランティア）
- ・体験者数：49 名
- ・活動内容：2021 年 3 月より相談を受けていたボランティア体験のコーディネートの依頼。5 月にはじめてのボランティア教室の開催も行い、継続的に学校側で学生の参加希望のとりまとめをしていただき、年間を通して 7 団体へ 49 名の参加がありました。

【グランドハイアット福岡】

- ・実施日：8/20（土）
- ・受入団体：1 団体（大濠公園の中の花のボランティア）
- ・体験者数：7 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施

【ICT コンストラクション株式会社】

- ・実施日：9/17（土）、12/17（土）
- ・受入団体：1 団体（大濠公園の中の花のボランティア）
- ・体験者数：24 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施

【一般社団法人 MDRT 日本会九州ブロック】

- ・実施日：10/5（水）
- ・受入団体：1 団体（生の松原保全プロジェクト）
- ・体験者数：50 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施。

【プルデンシャル生命株式会社】

- ・実施日：10/29（土）
- ・受入団体：1 団体（福浜海岸のビーチクリーン）
- ・体験者数：39 名
- ・活動内容：企業の CSR の一環で、ボランティア活動を実施

【福岡教育大学附属福岡小学校】

- ・実施日：1/28（土）、1/29（日）、2/4（土）、2/5（日）
- ・受入団体：4 団体（一般社団法人ふくおか FUN／福岡市水源林ボランティアの会／NPO 法人アクションタウンラボ／こうのす里山くらぶ）
- ・体験者数：59 名
- ・活動内容：11 月より相談を受けていたボランティア体験のコーディネートの依頼。子どもたちが体験に行く前に、はじめてのボランティア教室の開催も行い、4 団体へ 59 名の小学生がボランティアに参加しました。

【中村学園大学】

- ・実施日：2/4（日）
- ・受入団体：2 団体（和白干潟のクリーン作戦と自然観察）
- ・体験者数：19 名
- ・活動内容：大韓民国の大学より短期留学生が約 20 名来られ、短期留学プログラムの中でボランティア活動を体験させてあげたいとの相談があり、受入団体との調整を行いました。

〈成果〉

今年度もまとまった人数でボランティアに参加する際の窓口として、相談を受け付けました。学校や企業からの問い合わせが多数あり、相談者のご要望も聞きながら、受け入れ団体と丁寧に調整し、ボランティアコーディネートを行いました。あすみん交流会など、イベント等で来館された際の案内から、団体での参加までつながるケースもありました。

C	6-1	はじめてのボランティア教室	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	-----	---------------	---------------------

〈目的〉

小、中、高校生、大学生を対象に、ボランティアの基礎的な知識はもちろん、ボランティア活動をはじめたり、受入れたりする際の心構えやその意義を学ぶことを目的とする。

〈実施状況〉

● 講座の内容

- ・対象：学生（小・中・高校生・専門学校及び大学生）
- ・実施回数：3回
- ・参加者数：341名
- ・アンケート回収：261票
- ・理解度：とても理解できた、概ね理解できた 245票（94%）

【麻生公務員専門学校 福岡校】

- ・実施日：5/24（火）13時40分～15時30分（参加者：184名）

【福岡市医師会看護専門学校】

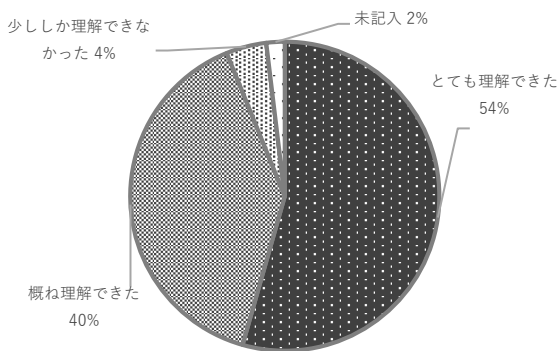
- ・実施日：6/27（月）13時30分～15時00分（参加者：81名）

【福岡教育大学附属福岡小学校】

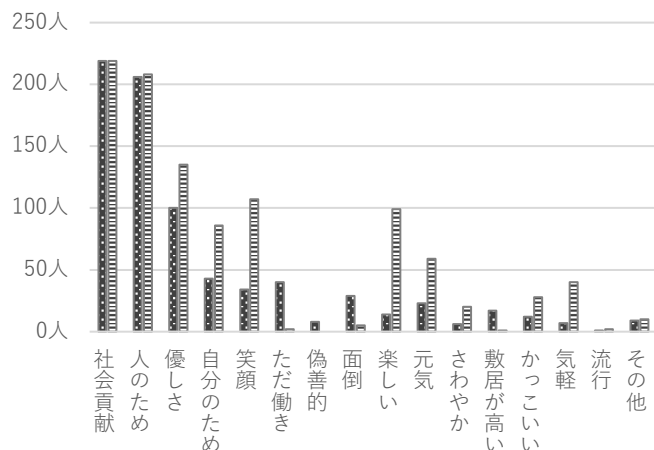
- ・実施日：1/20（金）9時35分～10時20分（参加者：76名）



■ はじめてのボランティア教室のようす



■ 講座の理解度



■ ボランティアのイメージの変化

〈事業総括〉

講座実施前に依頼側とのヒアリングを重ね、要望に沿ったプログラムを構成しました。具体的には、学校で学ぶ専門的な内容だけでなく、ボランティアに取り組む姿勢が、将来の社会のために参考になるという学校側の想いや、ボランティアの理解を深めてから体験活動をしたいという相談もあり、ボランティアの4原則を中心に概要を説明するとともに、NPO団体の活動事例を紹介することで、ボランティアを身近に感じてもらうプログラムを構成しました。今年度は小学校から、ボランティア活動のコーディネートに付随した講座の依頼もあり、アンケートには「ボランティアへの見方が変わった」という感想があり、学校の先生による講義では得られないあずみんならではの専門性を発揮することができました。

〈目的〉

NPO・ボランティア活動に取り組む学生が、普段関わることのない他大学のNPOに出会い、交流することを通して、参加者が活動のモチベーションを高めたり、参加者同士のネットワークを広げたりする機会を提供する。

〈実施状況〉

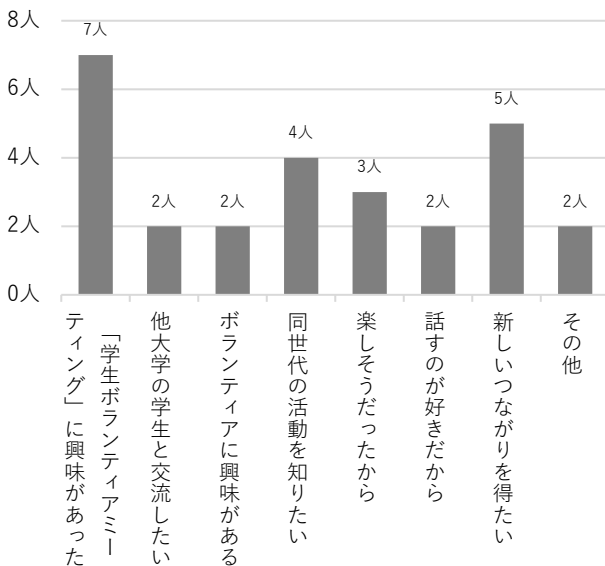
●ミーティングの内容

- ・対象：大学生、専門学生
- ・場所：セミナールーム
- ・実施回数：1回
- ・参加者数：12名（目標参加者数：20名）
- ・アンケート回収：12票
- ・満足度：とてもよかった、よかった12票（100%）
- ・実施日：10/1（土）15時00分～17時30分
- ・プログラム

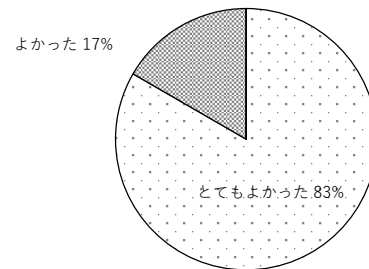
自己紹介、アイスブレイク、ワークショップ、フリー交流



■ワークショップの様子



■参加のきっかけ



■満足度

〈成果〉

すべての参加者が向き合って意見を交換できる円卓でのミーティングとなりました。登録団体への呼びかけや「dLab ディーラボフクオカ」での広報などから参加者が集まり、社会人の参加もあったため多様な意見が飛び交う活発な議論の場となりました。「大人になっても市民活動を続けたいと思った」「自身の視野が広がった」などの声も多く、交流の場としてだけでなく、参加者のモチベーションを高め、今後どのように市民活動に関わるか考えるきっかけとなる場を提供できました。

C	6-3 職場体験・インターンの受入れ	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	--------------------	---------------------

〈目的〉

職場体験を通して、次世代を担う若年層に「あすみん」の役割や市民公益活動の意義を伝える。また NPO やボランティアについての理解を深める機会を提供する。

〈実施状況〉

● 詳細

- ・実施回数：4回
- ・受入件数：4件
- ・参加者数：16名

● 内容

- ・あすみんについて
- ・NPO・ボランティアについて
- ・ボランティア講座
- ・窓口業務体験
- ・情報発信業務体験・登録団体との交流
- ・職員インタビュー
- ・団体インタビュー
- ・他館との交流（長崎市民活動センター「ランタナ」）
- ・市役所、株式会社ミカサ訪問
- ・イベント運営サポート（NPO 広報講座、あすみんステージ）
- ・社会課題を考えるワーク（社会課題カルタ）
- ・施設周辺清掃活動



■社会課題カルタ



■団体インタビュー

【九州産業大学】

- ・8/20（土）～8/26（金）（参加者：1名）
- ・9/8（木）～9/14（水）（参加者：2名）
- ・3/1（水）～3/7（火）（参加者：2名）

【九州インターンシップ推進協議会】

- ・8/20（土）～8/26（金）（参加者：1名）
- ・9/8（木）～9/14（水）（参加者：2名）
- ・3/1（水）～3/7（火）（参加者：2名）

【福岡大学】

- ・8/20（土）～8/26（金）（参加者：2名）
- ・9/8（木）～9/14（水）（参加者：1名）
- ・2/16（木）～2/21（火）（参加者：1名）

【福岡外国人雇用サービスセンター】

- ・2/16（木）～2/21（火）（参加者：2名）



■ボランティア情報記事の作成

〈成果〉

今年度はコロナ禍ではあったものの、夏季、春季ともに通常通りの実施となり、計 16 名の学生を受け入れました。インターンシップ協議会、福岡外国人雇用サービスセンターから留学生の参加もあり、コミュニケーションと活動体験を通して学べるプログラムを用意しました。登録団体との交流や市役所、株式会社ミカサへの訪問を行い、市民・行政・企業それぞれの立場の方との交流が充実したインターンシップとなり、学生の市民公益活動への意識が高まりました。就職活動に向けて視野を広げる機会となったようです。

C	6-4 寄付ボックスの設置	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	---------------	---------------------

〈目的〉

年齢や立場に関係なく誰でも気軽に参加できる枠組みとして、様々な支援（切手、入れ歯、歯ブラシ回収など）につながる「寄付ボックス」を設置し、寄付を身近に感じてもらえる意識啓発の機会を提供する。

〈実施状況〉

●詳細

- ・設置している寄付ボックスの種類：5種類
- ・寄付した回数：2回
- ・寄付物品・数量：使い捨てコンタクトレンズの空ケース 2,211g
 - ：使用済み切手 約 194g
 - ：未使用はがき 24枚



■寄付ボックス

- ・3/22 (水)
 - 寄付先：コンタクトのアイシティ福岡天神パルコ店
 - 数量：使い捨てコンタクトレンズの空ケース 2,211g
- ・3/27 (月)
 - 寄付先：認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会
 - 数量：使用済み切手 約 194g
 - 未使用はがき 24枚



■コンタクトのアイシティ福岡天神パルコ店にて



■使用済み切手、未使用ハガキ

〈成果〉

寄付ボックスで回収した物品のうち、使い捨てコンタクトレンズの空ケースをアイシティ福岡天神パルコ店へ、使用済み切手、未使用はがきを認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会へ寄付しました。また館内での案内だけでなく、12月の寄付月間に合わせ掲示物やSNSやでも寄付ボックスの周知を行いました。寄付ボックスの設置を通して寄付に対する意識啓発を図り、身近にできる社会貢献活動のひとつとして来館した方々に参加を促しました。

C	6-5	子ども一日ボランティア	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	-----	-------------	---------------------

〈目的〉

若い世代が市民公益活動に関心を持つことを狙いとして、小学生を対象としたボランティア体験の場を創出する必要に応じて、市民活動団体と連携し、より実践的な体験の場を提供を目指す。今年度はプログラム開発の準備期間とする。

〈実施概要〉

●ミーティングの内容

- ・開催場所：セミナールームC
- ・実施日：7/30（土）15時00分～15時30分、2/18（土）15時00分～16時30分
- ・内容：植物の観察と、葉っぱを使ったエコバックの作成
- ・協力団体：「NPO法人緑のキャラバン隊」（0267）



■体験イベントの様子

〈成果〉

今年度はプログラム概要検討期間として、子どもやその保護者を対象とした小規模の体験イベントを実施し、事業の周知を行いました。プログラムは夏の実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮して、緩和した冬に実施しました。プログラムとしては、登録団体から協力頂いて「葉っぱを使ったエコバックづくり」を行い、5組の親子に参加いただきました。アンケートの結果には「子どもが楽しめていてすごく良かった!」「子どもの体験などいつもありがとうございます!」などの感想があり、次年度の本格的な実施に向けて良い感触を得られました。

C	6-6 SDGs 勉強会	6:ライフサイクルを通じた公益力の育成
---	--------------	---------------------

〈目的〉

SDGs の 17 の目標について多くの市民により深く知ってもらい、社会課題への解決へ向けた関係づくりをすすめることを目的とする。

〈実施状況〉

●内容

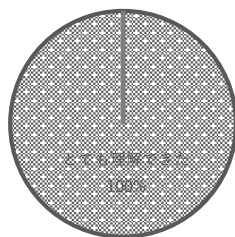
- ・実施日：3/16（木）18時30分～21時00分
- ・場所：ミーティングコーナー
- ・プログラム
 アイスブレイク
 カードゲーム「2030SDGs」
 （ニイゼロサンゼロ エスディーゼズ）
 ゲーム振り返り
 「どんなボランティアセンターになってほしいか」
- ・講師：一般社団法人 SDGs 未来ラボ 阿部昭彦氏
- ・対象：中間支援施設職員、関係者
- ・参加者数：13名
- ・アンケート回収：11票
- ・理解度：とても理解できた11票（100%）



■ワークショップの様子



■SDGs 勉強会の様子



■理解度

〈成果〉

初めての開催ということで、SDGs に関する相談があった際に、スタッフが答えられることを目標に講師と内容を協議しました。カードゲーム「2030 SDGs（ニイゼロサンゼロ エスディーゼズ）」を体験しながら、SDGs について楽しくも、真剣に考えることができました。アンケートには、「（SDGs について）より深く意味を知ることができました。」「社会をどうしていきたいか、考えるきっかけになりました。」といった声がありました。まとめでは、「どんなボランティアセンターになってほしいか」との問いについて参加者で議論を交わし、スタッフ全員が今後のあすみのあり方についても考える機会になりました。

C	7-1	「市民活動を対象とした助成金」に関する調査研究	7:市民公益活動に関する調査及び研究
---	-----	-------------------------	--------------------

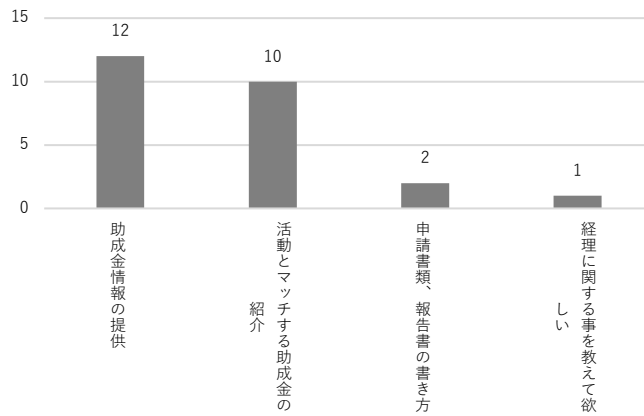
〈目的〉

全国の市民活動を対象とした助成金の現況や動向を調査し、各団体に向けた活用方法のアドバイスや情報提供方法のブラッシュアップにつなげる

〈実施状況〉

● 調査項目

- ・ 団体アンケート
- ・ 相談シート集計
- ・ 窓口調査
- ・ 被助成団体へのヒアリング
- ・ 助成団体へのヒアリング



■被助成団体があすみに求めること

〈事業総括〉

あすみんは、NPO法人以外にも任意団体、社会的企業等、さまざまな団体が利用しており、多くの団体から助成金をはじめ、財政面の相談をうけています。今回の事業では助成金に関する実態を被助成団体、助成団体の両側面から調査し、今後のあすみん利用者へのサービス向上につなげていくことを目的としました。団体アンケート・相談シート集計では、あすみん登録団体の助成金に関する実情を調査し、助成金に関する相談では、申請先を探している、助成金制度の説明を受けにくといった相談内容が多いことが明らかになりました。被助成団体・助成団体へのヒアリングでは、あすみんのような中間施設が橋渡し役となってほしいという旨の意見が多くみられました。

あすみん利用者へのサービス向上につなげていくためには、新しく事業を始めようとする団体やすでに事業を行っているが財政面に問題を抱えている団体などに、適切な助成金プログラムの情報を提供できる施設となり、被助成団体、助成団体の両方のサポートをしていくことが必要だと考えられます。

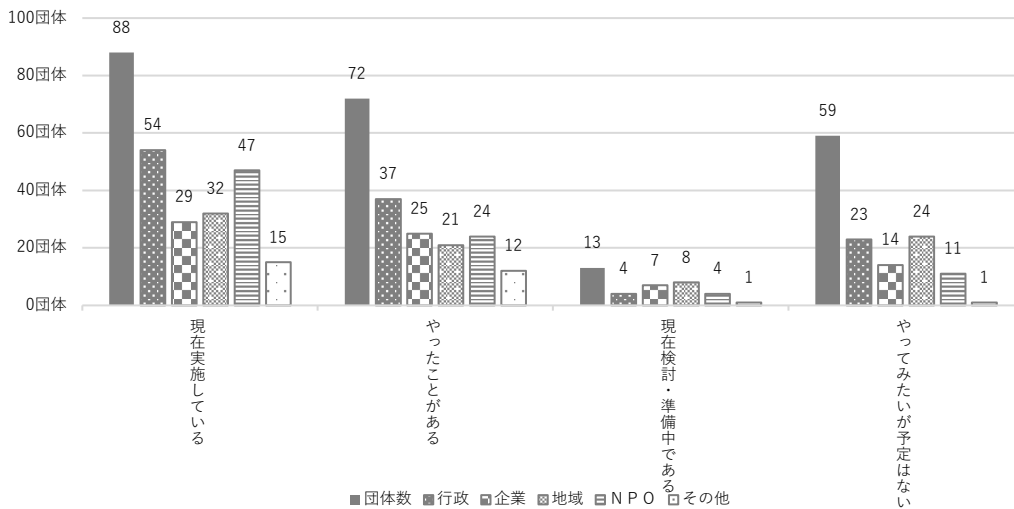
今後、登録団体、助成団体と密にコミュニケーションをとり、登録団体の事業や情報収集した助成金プログラムの把握に努めていくことで、当センター利用者へのサービスを向上していきたいと考えます。

〈目的〉

- ・企業によるボランティア活動の状況を調査する（福岡市内・全国）
- ・CSR、CSVへの理解度、NPOとの共創が市民活動にどのような影響をおよぼすかなどを調査する（2カ年での完成、初年度は調査）

〈実施状況〉

- 先行研究の調査
- あすみんと関わりがある企業の市民公益活動をリストアップ
- 団体アンケートの集計



■2022年度登録団体アンケートより「他団体との連携について」

〈事業総括〉

先行研究より、企業がどのような理由でNPOと連携しているのか、どのような属性の企業が積極的にNPOと連携しているのか、企業とNPOの「協働」や「寄付」による連携が、企業の社会的評価に及ぼす影響などを調査しました。また、過去あすみんと事業やSNSなどで関わりのあった企業をリストアップし、どのような市民公益活動を行っているか調査し、団体アンケートからはあすみん登録団体がどの程度企業と共働しているのかについて集計しました。

2年目は企業のCSR、CSVへの理解度、NPOとの共創が市民活動にどのような影響をおよぼすかなどを調査していきます。

C	8-1	ソーシャルショップ	8:自主事業
---	-----	-----------	--------

〈目的〉

活動を通じて作られた作品や販売商品、またフェアトレードや先進的なNPO活動によって生まれたアイデアを紹介し、その関連グッズ等を展示する。

〈実施状況〉

- ・実施回数：1回
 - ・実施期間：2022年4月1日（日）～5月19日（木）
 - ・開催場所：ミーティングコーナー・受付
 - ・サステナブル認証商品や地域支援商品の展示
 - ・展示団体数：5団体
 - ・展示商品数：11点
- 触れるサンプル商品の設置
 手書きの商品紹介POPの作成
 オンラインショップへアクセスできるQRコードの作成



〈成果〉

昨年度の3月に実施したグッドアクティビティフェスティバルで展示した商品を、4月から館内で展示しました。より商品の魅力が伝わるように、職員が手作りしたポップの設置や、実際に触って商品を確認できるような展示内容を用意して、商品を身近に感じてもらう機会を提供しました。来館者から「ここで買うことはできないの?」という質問もあり、あすみんでの購入ニーズもありました。

C	8-2	あすみんオーダー講座	8:自主事業
---	-----	------------	--------

〈目的〉

団体等からの要望に対し、個別の課題に応じた講座を企画、実施する。従来のボランティア講座、NPO 入門講座などについても、依頼された団体のニーズに沿った内容を提供する。

〈実施概要〉

- 成功する！！講演会の開き方
 - ・ 主催団体：早良区生涯学習支援課
 - ・ 講座内容：「講演会の開き方」
 - ・ 講座の対象：自治会長や町内会長
 - ・ 撮影場所：西市民センター視聴覚室



〈成果〉


早良区生涯学習支援課より、自治会の方々に「講演会の開き方」について伝えたく、これまで講演実績が豊富なあすみに自治会長向けの動画撮影に協力してほしいという依頼がありました。内容としては、センター長中村と永尾が、講演会を実施するにあたりどんな準備が必要か、気を付ける点などはどこかなどについて掛け合いで話している様子を、動画に撮り、自治会長や町内会長へ限定 URL として配信するもので、西区・早良区生涯学習支援課合同企画でした。

今回は以前からのつながりでのご相談でしたが、今後あすみの得意や強みを発信していくことで、オーダー講座の需要というのは十分にあると考えています。さまざまな相談対応を行ってきた実績をいかし、いろいろなオーダー講座を来年度はつくって、学校・企業・地域と多くの関わりをつくっていきたいと考えます。

8.まとめ

- *とにかく「企画」を丁寧に！
- * 企画のキモ！「講師」とのテーマ共有
- * どんな会になるのか想像しておこう！
- * 的確なPRで集客アップ！
- * 講演会のアンケートは大切な情報源
- * 成果は次につなげよう

プロに聴く!!
成功する!! 講演会の開き方



C	8-3	出張相談	8:自主事業
---	-----	------	--------

〈目的〉

団体活動の現場に伺い、対話しながら直接的な実践方法などをアドバイスし、行政とも協議しながら「あすみん」のサービスとして実装できるかを検討する。

〈実施状況〉

(実施なし)

C	8-4	自動販売機の設置・販売	8:自主事業
---	-----	-------------	--------

〈目的〉

利用者へのサービス向上を図るほか、収益の一部を「あすみん夢ファンド」に寄付することによって、市民公益活動への取り組みを促進する。また、寄付額の報告を掲示するなど、利用者に取り組みのPRを行う。

〈実施状況〉

- ・ 設置期間
4月1日(金)～3月31日(金)
- ・ 設置業者
サントリービバレッジソリューション株式会社
(2022年4月分～2023年3月)
- ・ 寄付総額：96,400円



■寄付つき自動販売機

販売月	売上本数 (本)	合計 (円)
4月	393	7,860
5月	390	7,800
6月	446	8,920
7月	405	8,100
8月	602	12,040
9月	446	8,920
10月	324	6,480
11月	289	5,780
12月	346	6,920
1月	292	5,840
2月	416	8,320
3月	471	9,420
計	4,820	96,400

■月別の寄付額



■寄付金額のお知らせ

〈成果〉

様々な世代に対応できるように種類豊富で季節に応じた商品を用意して、購入したくなるきっかけを作りました。購入者からは「好きな商品があって嬉しい」「気軽に寄付ができてすごい」などの声もありました。また、自販機そばには「あすみん夢ファンド」のPRを含めたポスターを掲示して、飲み物を購入することで、寄付につながる仕組みを分かりやすくしました。実際の寄付額も毎月自動販売機に掲示して取り組みを紹介することで、市民活動支援の一つとして知る機会にもつながりました。

C	8-5	あすみんサブスク	8:自主事業
---	-----	----------	--------

〈目的〉

利用者サービスの向上をはかるため、サブスクリプション方式での有料利用を検討する。

〈実施状況〉

(実施なし)

C	8-6	事務用品、印刷サービスの販売	8:自主事業
---	-----	----------------	--------

〈目的〉

市民公益活動に必要な事務用品の販売と印刷サービスの提供を通して、利用者へのサービス向上を図る

〈実施状況〉

●2022 年度販売物

- ・コピー用紙 (A4・B4・A3・カラー5種)
- ・ハレパネ (A1・A2・A3)
- ・ラミネートフィルム (A4・A3)
- ・製本テープ

あすみん自主事業 売上
(2022.04~2023.03)

販売月	B4 (白)	A4 (白)	A3 (白)	A4(カラー)	ハレパネ	製本テープ	ラミネート フィルム	合計 (円)
4月	700	860	1,700	3,000	0	0	0	6,260
5月	0	3,720	1,250	180	0	0	0	5,150
6月	0	6,360	850	540	0	0	0	7,750
7月	0	860	400	0	550	0	0	1,810
8月	700	1,840	850	0	550	0	0	3,940
9月	0	4,100	400	0	16,500	0	0	21,000
10月	700	1,840	850	750	550	0	0	4,690
11月	0	1,740	850	0	12,350	0	340	15,280
12月	700	1,360	400	0	132,000	0	0	134,460
1月	0	1,120	850	0	60,800	0	0	62,770
2月	0	11,480	850	0	32,800	0	0	45,130
3月	0	21,100	600	0	0	0	320	22,020
計	2,800	56,380	9,850	4,470	256,100	0	660	330,260

用紙・ハレパネ等購入 精算書
* 自主事業本部に納入の上、ご利用の単位・発行日に従って集計しております。

20 年 月 日

品名	数量	単価	金額
B4(白)	□	100枚入り	700円/枚
□	100枚入り	120円/枚	円
□	200枚入り	240円/枚	円
□	300枚入り	360円/枚	円
□	400枚入り	480円/枚	円
□	500枚入り	500円/枚	円
□	100枚入り	200円/枚	円
□	200枚入り	400円/枚	円
□	300枚入り	600円/枚	円
□	400枚入り	800円/枚	円
□	500枚入り	800円/枚	円
□	100枚入り	180円/枚	円
□	200枚入り	360円/枚	円
□	300枚入り	540円/枚	円
□	400枚入り	720円/枚	円
□	500枚入り	720円/枚	円
□	A1 (310 × 605mm)	1,850円/枚	円
□	A2 (420 × 605mm)	400円/枚	円
□	A3 (420 × 300mm)	500円/枚	円
□	□mm	300円/100mm	円
製本テープ	B5	100円/本	本
□	A4	100円/本	本
□	A4	500円/枚	枚
□	A3	80円/枚	枚
合計			円

〈成果〉

今年度より指定管理者の自主事業として販売を開始しました。特徴としては 11 月以降の売上が伸びているところです。コロナ禍で長期にわたり活動自粛していた団体を中心に、対面のイベント実施に伴う活動自粛の緩和が見られ、利用者からも「ようやくコロナ前のようにイベントが実施出来る」「まだイベントが実施出来るか不安だけど、いつものように準備はしておきたい」という先を見据えた声が寄せられ、売上からも社会情勢の変動が大きく影響していることが分かりました。

C	8-7	遺贈相談窓口の設置	8:自主事業
---	-----	-----------	--------

〈目的〉

先進的に取り組んでいる、団体や地域などと連携しながら、企画・実装をすすめる。

〈実施状況〉

●遺贈相談の受け入れが可能な専門家や団体について情報を収集

- ・福岡市社会福祉協議会（遺贈による寄付の受付）
- ・福岡大学
- ・九州大学基金（信託銀行などが仲介する）

※現金以外に有価証券株式等、不動産、古本、美術品なども引き受け出来る可能性がある

〈成果〉

遺贈寄付には専門的な知識やノウハウが求められ、その分野に精通した職員による対応が必要であることがわかりました。あすみんで行うサービスとしては、常設での窓口設置をするほどのニーズはなく、申し込みがあった際に専門家とつなぐ方法が効果的だとの判断に至りました。